有線LAN対応ネットワークカメラ

CS-MVTX01F

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

使用前に必ずお読みください

■本書の目的

本製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本書は、本製品を正しくお使いいただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管していただきますようお願いいたします。

■ご注意

・ 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、停電・落雷などの外的要因、第3者による妨害行為などの要因によって、通信機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
・ 通信内容や保持情報の漏洩、改竄、破壊などによる経済的・精神的損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
・ ハードウェア、ソフトウェア、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
・ 本製品内部のソフトウェア（ファームウエア）更新ファイル公開を通じた修正や機能追加は、お客様サービスの一環として随時提供しているものです。内容や提供時期に関しての保証は一切ありません。
・ 輸送費、設定、調整、設置工事などは、お客様負担となります。
・ 本製品は日本国内仕様であるため、別途定める保証規定は日本国内でのみ有効です。

■著作権等

・ 本書に関する著作権は、プラネックスコミュニケーションズ株式会社へ独占的に帰属します。プラネックスコミュニケーションズ株式会社が事前に承諾している場合を除き、形態及び手段を問わず、本書の記載内容の一部、または全部を転載または複製することを禁じます。
・ 本書の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、本書の記述に誤りや欠落があった場合もプラネックスコミュニケーションズ株式会社はいかなる責任も負わないものとします。
・ 本書の記述に関する、不明な点や誤りなどお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
・ 本書および記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

●マニュアル内の表記について
本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

●記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

本製品を安全にご利用いただくために

⚠警告

本製品をご利用の際は、以下の注意点を必ずお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などにより使用者の重傷または死亡につながるおそれがあります。

■ 設置及び保管に関して

・動作環境範囲外で本製品をご利用にならないでください。
範囲外の温度や湿度の環境でご利用になることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・直射日光の当たる場所や暖房器具の近くで本製品をご利用にならないでください。
本製品が加熱することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・温度変化の激しい場所で本製品をご利用にならないでください。
動作範囲内の温度であっても温度変化が激しい場所でご利用することで、結露などが原因で感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・本製品の近くに液体が入った容器を置かないでください。
本製品に液体がこぼれることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・コンピュータの取り付け口に異物などが混入しているときは取り除いてください。
コンピュータの取り付け口に異物が混入した状態で本製品を取り付けることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・本製品を分解、改造しないでください。
本製品を分解または改造することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。また改造は法律で禁止されています。

■ 取り扱いに関して

・高温に注意してください。
本製品の使用中は高温になっている恐れがあります。不用意に触ると火傷の恐れがあります。
・湿気やほこりの多いところに保管しないでください。
湿気やほこりの多いところに保管することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・本製品を重ねて設置しないでください。
本製品を重ねて設置することで製品が加熱し、感電、火災などの発生、または本製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用にならないでください。
振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用になることで、本製品の落下、誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・静電気に注意してください。
本製品は精密機器です。静電気の影響によって、製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。本製品を取り付ける際は、コネクタや取り付け部分を触れないなどの注意をしてください。
・落下や衝撃に注意してください。
本製品に落下や衝撃を与えることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

■ その他

・本製品は日本国内でご利用ください。
本製品は日本の国内法のもとで利用可能な製品です。海外での利用はできません。また、本製品ご利用の際は各地域の法令や政令などによって利用の禁止や制限がなされていないかご確認してください。

・ご利用のコンピュータのデータのバックアップを取得してください。
本製品のご利用にかかわらず、コンピュータのデータのバックアップを定期的に取得してください。万一不測の事態が発生し不用意なデータの消失や復旧が不可能な状態に陥ったとき回避策になります。なお、本製品のご利用に際しデータ消失などの障害が発生しても、弊社では保証いたしかねることをあらかじめご了承ください。

目次

1.はじめに

1.概要

本製品はイーサネットに接続できるパン/チルト対応のネットワークカメラです。

本製品はコンピュータに取り付けるWEBカメラとは異なり、内蔵のCPUによる独立したシステムを使用し、コストパフォーマンスをはかったうえで、高品質なビデオ映像を送信、監視することができます。本製品はネットワークに接続されたコンピュータからインターネットやイントラネットを経由してリモート管理できます。また、簡単インストール手順とWEBベースの設定画面は容易にネットワークと連携し、コスト的に効率良いビデオモニタリングが構築できます。

2.製品の特徴

・強力なCPUを内蔵

ハイ・パフォーマンスを提供する、次世代のオーディオ/ビデオ機器に設計されたCPUを使用。

・カンタン設定・モニタリング

各設定はWEBブラウザ上からおこないます。付属のIP設定ユーティリティInstallation WizardによりカメラのIPアドレス自動検索をおこない、使い勝手の良さを重視しています。

・ネットワークへの接続は簡単かつフレキシブル

本製品をハブ/ルータに接続するだけで社内LAN、家庭LAN、外部のネットワークからカメラの映像がみられます。

・高速パン/チルト対応

コンピュータのWEBブラウザを使って、カメラを水平方向(パン)270度、垂直方向(チルト)135度動かせ、広範囲をモニタリングできます。あらかじめプリセットポジション(20ヶ所まで)を設定すれば、簡単に目的の個所に移動することもできます。

・ビデオ/オーディオ同時通信、内蔵マイク

最新の動画圧縮方式MPEG-4を採用し、必要最低限の帯域幅を満たす環境でも高品質の映像を保証します。しかも、音声配信にも対応。内蔵・外部マイクを選択できますのでビデオ/オーディオを両方とも楽しめます。

・モーション検知、外部センサーアラーム

高度なモーション検知機能のほか、外部アラームトリガー用のコネクタを装備しています。モーション検知や外部トリガー検知するとスナップショット付のメールを送信したり、ネットワーク上のサーバへスナップショットを転送したり、イベントを追跡できます。

・ユーザ制限によりセキュリティを実装

ユーザパスワードを設定し、カメラへの不信なアクセスを防止します。各ユーザアクセスレベルは、モニタリングのみ、外部端子コントロール、パン/チルトコントロールの権利を、ユーザごとに割り当てられます。

・モニタリング・録画ユーティリティ付

標準で本格的な監視ユーティリティがついています。カメラ16台まで同時モニタリング及び録画、また効率的なデータ検索と再生をおこなうことができます。

・リモコン付

操作に便利なリモコンがついています。「赤外線コントロール」機能をONにし、リモコンで思い通りにカメラを操作できます。

・画像のサイズ、画像品質の調整可能

使用のネットワーク環境、用途などによって画像を調整できます。色調、彩度、コントラストまで、細かい設定をおこなえます。

・ダイナミックDNSに対応

固定のIPアドレスは必要ありません。www.dyndns により提供されているDDNSサービスを利用すれば、動的に取得するIPアドレスでもカメラにアクセスできます。

・多数のネットワークプロトコルに対応

HTTP、SMTP、FTP、DNS、DHCPなど、多数のプロトコルをサポートしています。

3.コンピュータ仕様

■本製品をご使用いただくために以下のシステム要件を満たす必要があります。

ネットワーク環境

対応標準　IEEE802.3 10BASE-T,IEEE802.3u 100BASE-TX準拠

本製品接続の推奨コンピュータ

対応OS	Microsoft Windows XP/2000/Me/98SE
WEBブラウザ	Internet Explorer 5.5以上
インタフェース	10/100Mbps LAN ポートが装備されていること

CS ME-Watcherのシステム要件

対応OS	Microsoft Windows XP/2000/Me/98SE（XP/2000推奨）
CPU	Intel Pentium 350MHz以上 （Intel Pentium 1GHz以上推奨）
メモリ	128MB以上（256MB以上推奨）
ディスプレイ	解像度1024×768以上、256色以上

4.同梱内容の確認

パッケージから注意して内容物を取り出し、以下の付属品が含まれていることを確認してください。

・CS-MVTX01F本体
・ACアダプタ
・リモートコントローラ（電池付）
・「Manual & Utility」CD-ROM
・AVケーブル
・らくらく！かんたん設定ガイド
・スタンドキット
・LANケーブル（ストレート 2m）
・安全に関する説明書
・保証書

付属品が足りない場合、または破損などがある場合は、お手数ですが販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

2.各部の名称とはたらき

1.本体前面

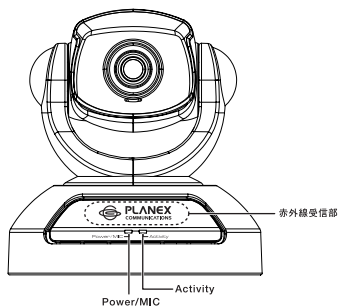



図2-1 CS-MVTX01F前面

■LEDランプの動作

Power/MIC	点灯（赤）	電源が入っている状態
	点滅（赤）	外部マイクが接続された状態
	消灯	電源が入っていない状態
Activity	消灯	IPアドレス未取得
	点滅（緑）	IPアドレス取得完了

Power/MICとActivityの点灯設定をOFFにすることができます。
「第8章 5-1 システム」（72ページ）を参照してください。

LEDにて本製品のステータス確認

電源投入後、本製品は自己診断(POST)テストをおこなってハードウェアの異常の有無を確認します。以下の表は、通常動作時のLEDの動作パターンを示しています。LEDは別のパターンで点滅する場合、致命的なエラーが発生している可能性があります。

状態	**LED 点灯/点滅状態**
電源投入後、 自己診断実行中	Power/MIC LED(赤)と Activity LED(緑)が交代で点滅
イーサネット信号が検出できない	イーサネット信号を検出するまで Power/MIC LED(赤)が点灯
ネットワーク設定前	IPアドレスが確認できるまで Activity LED(緑)が点灯
ネットワーク設定後	Activity LED(緑)が毎秒に点滅
ハードウェア上の障害を検出	他のパターン

●注意

Activity LEDが点灯状態にならない場合は、LANケーブルが抜けていないか、またはLANケーブルのタイプ「第3章 2.LANケーブルの取り付け」(25ページ)を確認してください。

2.本体背面

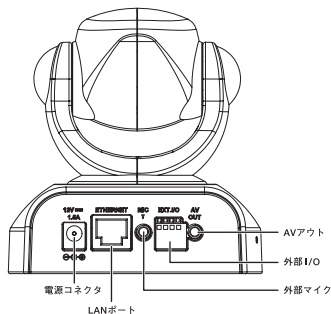



図2-2 CS-MVTX01F 背面

電源コネクタ	10/100BASE-TX用LANケーブル（カテゴリー5）のRJ-45ポート
LANポート	付属のAC電源アダプタを接続するための電源コネクタ
外部マイク	外部マイクを接続するためのコネクタ
外部I/O	センサーなど外部機器を接続するためのコネクタ（外部接続端子の仕様 15ページ）
AVアウト	外部のオーディオ/ビデオ機器を接続するためのコネクタ

■外部接続端子の仕様

本製品の外部端子は、デジタル入力×1を装備した一般端子ブロックおよび、機器制御用のリレースイッチを提供します。外部端子はセンサーなど市販の外部機器の接続に使用されます。
外部機器を接続した場合、「アプリケーション」設定ページで「トリガー条件」を設定し、トリガー条件が検知されたらアラーム発生、スナップショット送信をおこなうことができます。

ピン1および2は外部センサに接続用であり、電圧は初期状態で「低」となっています。ピン3および4のリレースイッチは外部機器のオン・オフ用として使用します。

ピン	名称	機能説明
1	DI +	デジタル入力 最大 50mA, 12VDC
2	DI -	デジタル入力 入力電圧の初期状態:低
3	SW_COMMON	デジタル出力 初期状態においてSW_OPEN からオープン デジタル出力をONにした時点でSW_OPENにてクローズ
4	SW_NOPEN	デジタル出力 最大 1A, 24VDC、または0.5A, 125VAC

周辺機器の正しいインストール方法については、同機器の販売元にご確認ください。

3.本体側面

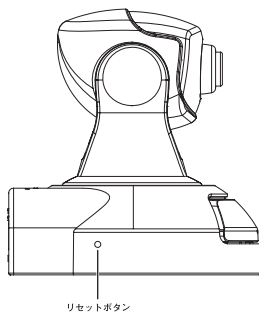



図2-3 CS-MVTX01F 側面

リセットボタンは、本製品を再起動するときと、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻すときに使います。(先の細長い棒を使って押してください)

■再起動

リセットボタンを一回押します。Power/MICとActivity LEDが両方点灯してから数回点滅します。Power/MIC LEDが点灯(赤)、Activity LED が点滅(緑)状態に戻ったら再起動完了となります。

■工場出荷時設定に戻す

パスワードを忘れたり、変更した設定をクリアしたいなどの時は本製品を初期設定状態に戻すことができます。

1. 初期設定を戻すには、リセットボタンを自己診断（POST）が始まるまで数秒間押し続けます。

2. 自己診断（POST）が1回終わるまで待ちます。

3. 2回目の自己診断が始まると同時にボタンを離します。

●*注意*

- *工場設定に戻すときは決して本体の電源を切らないでください。*
- *工場設定に戻すと変更した設定はすべて失われますのでご注意ください。*

4.本体底面

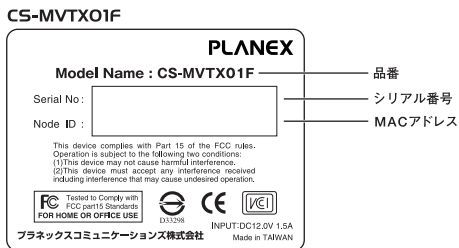



図2-4 CS-MVTX01F CEラベル

「品番」
本製品の製品型番です。

「シリアル番号」
本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザー登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受ける場合にも必要になります。

「MACアドレス」（Node ID）
本製品のMACアドレスです。

5.リモコン

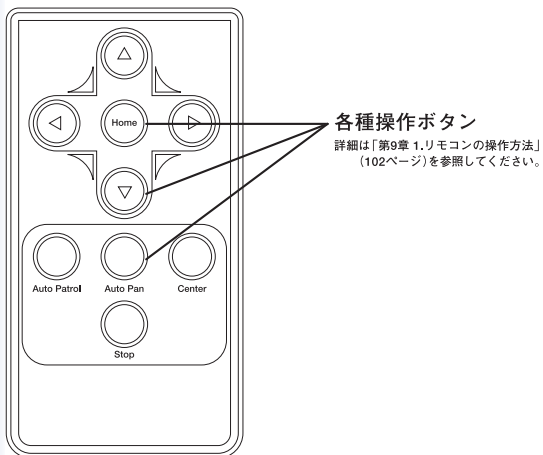



図2-5 リモコン操作面

図2-6 リモコン側面

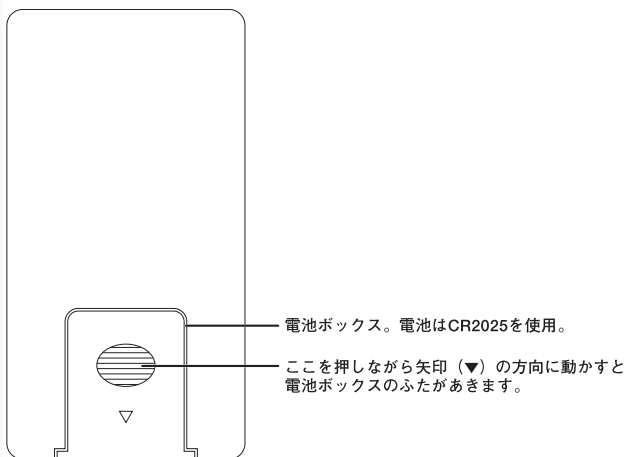



図2-7 リモコン裏面

操作方法は「第9章 1.リモコンの操作方法」（104ページ）を参照してください。

3.ハードウエアの設置と接続

1.設置場所について

本製品を設置するときは以下の点をお守りください。

・湿気の多い場所には設置しない。
・チリやほこりの多い場所には設置しない。
・直射日光の当たる場所や温度の高い場所には設置しない。
・設置する周囲の空間を空ける。
・デスクの上など平らな場所へ設置する。

●注意

カメラの稼動部の周囲に障害物などがあると製品が正しく動作しない恐れがあります。障害物があるときは取り除くか設置場所を変えてください。カメラの稼動部に指などをはさまないようお気をつけください。本製品はインターネットに接続できるため、お客様のプライバシーに影響を与える恐れがあります。この問題は多くのインターネット・プログラムに共通したものです。お客様がこの問題を望まないときは、本製品の使用を控えてください。

2. LANケーブルの取り付け

本製品の背面のLANポートにLANケーブルを取り付けます。接続する機器に合わせてLANケーブルの種類を選んでください。

本製品と機器の接続	LANケーブルのタイプ
本製品～コンピュータ	クロスタイプ ※1
本製品～ハブ/スイッチ	ストレートタイプ
本製品～ブロードバンドルータ	ストレートタイプまたはクロスタイプ ※2

※1 同梱されているLANケーブルはストレートタイプです。クロスタイプのLANケーブルは別途ご用意ください。
※2 接続するブロードバンドルータのポートの仕様を確かめてください。

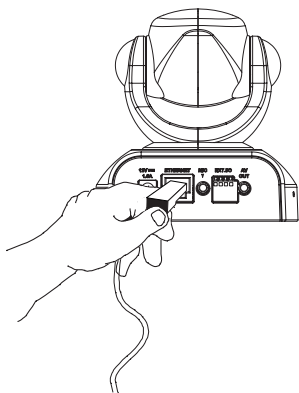



図3-1 LANケーブルの取り付け

3. ACアダプタの取り付け

本製品背面の電源コネクタに付属のACアダプタを取り付けます。ACアダプタをAC100Vコンセントに差し込みます。

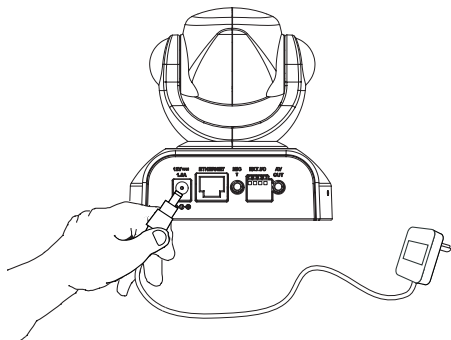



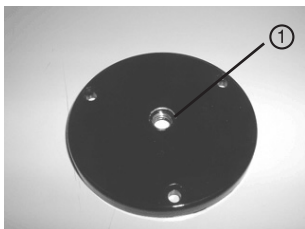
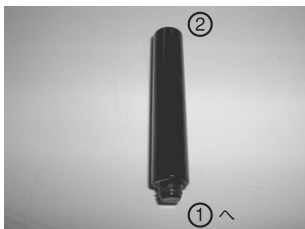
図3-2 ACアダプタの取り付け

●注意

ACアダプタは必ず付属のものを使用してください。付属以外のACアダプタの使用は、製品の故障、誤動作などの原因となる恐れがあります。付属以外のACアダプタを使用したときの製品動作および故障は、弊社保証の対象外です。

4. 付属スタンドの取り付け

本製品に付属のスタンドを取り付けることで、高さの変更や角度を調整できます。スタンドは部品A、B、Cの3つで構成されます。図を参考にスタンドを組み立ててください。

1. スタンド部品

部品 A

部品 B

部品 C

2. 完成図

組み立てたスタンドは、本製品底面にあるネジ穴に取り付けます。部品Aには3箇所の穴が開いているので壁や天井にも取り付けできます。

組み立て例 1
部品 Bを使ったとき

組み立て例 2
部品 Bを使わないとき

●注意

壁や天井に取り付けるときは、落下しないようにしっかりと取り付けてください。本製品には取り付け用のネジは付属しておりません。スタンドを取り付ける材質にあわせ、別途取り付け用のネジをご用意ください。

3.角度調整

部品Cは角度を調整できます。部品C横のハンドルを緩めて角度調整後、しっかり締め付けます。

部品 C

4. ネットワークカメラの活用

1.実用例

●家事をしながら、寝ている赤ちゃんの様子を見ることができます。

●外出先からインターネット経由で、ペットの様子を見ることができます。

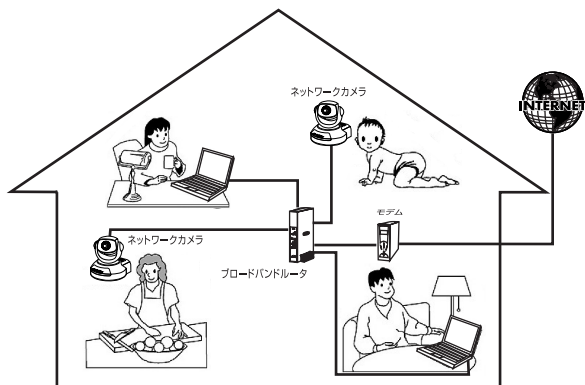
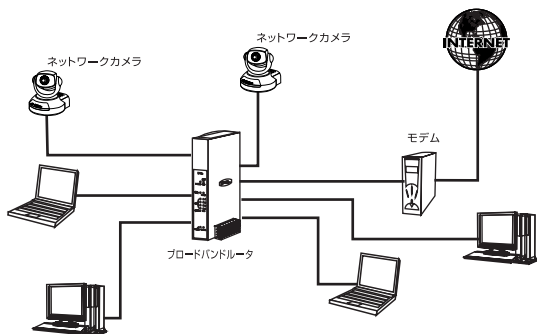
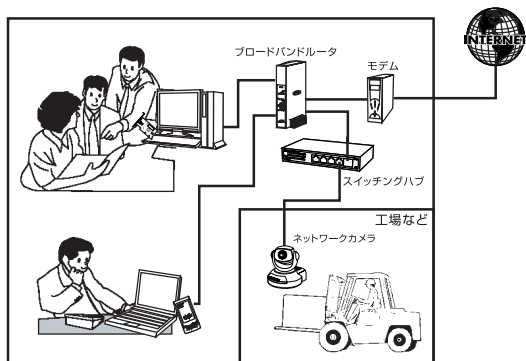
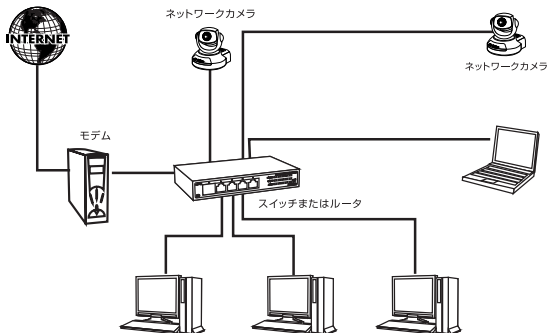
●公共の場で、出入口、ロビーに本製品を設置し、混み具合、接客対応など監視できます。

●検証ルームなどで、異常の場合に早期対応、事故防止に役立ちます。

●マンションのエントランスに設置し、住居者の安全性を守ることができます。

●CS ME-Watcher モニタを使用すれば、ビデオ映像の静止画を取り出すことができます。

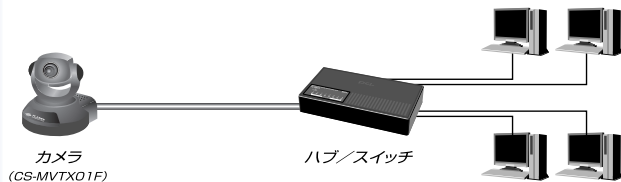
●モーション検知機能を使用すれば、カメラ映像が被写体の動きを検知したときのアラーム警告とその際に撮影された映像をメール送信することができます。

2.ご家庭での利用例

構成事例:

3.SOHOでの利用例

構成事例:

4.接続タイプ

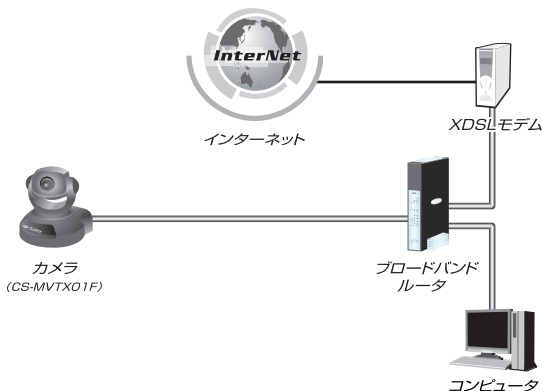
A.ネットワークカメラをコンピュータに直接接続する

●注意

あらかじめクロスタイプのLANケーブル（カテゴリ5以上）を用意してください。

B. ネットワークカメラをハブ/スイッチに接続し、LANカメラとして使う

●注意

付属のストレートタイプのLANケーブルをご利用ください。

C.ネットワークカメラをルータ/モデム経由でインターネットに接続する

●注意

・ルータ使用のとき
ルータはローカルサーバ機能(DMZ)対応の機種が必要です。
・ケーブルモデム/XDSLモデム使用のとき
本製品はPPPoEをサポートしていません。PPPoE接続をご利用の場合はPPPoE対応のブロードバンドルータが必要です。

5.本製品を設定するための
コンピュータの準備

本製品を設定するためのコンピュータの設定について説明します。DHCPによりIPアドレスを自動的に取得している場合は本章の設定は必要ありません。第6章（50ページ）へおすすみください。

1.コンピュータの設定

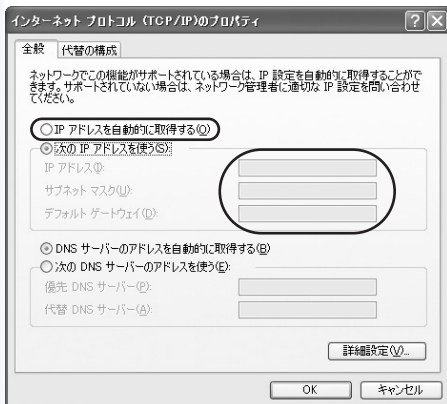
コンピュータの設定について説明します。ご使用のOSの説明を参照してください。

■Windows XP

1. コンピュータにLANアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確認してください。LANアダプタがインストールされていない場合は、LANアダプタのマニュアルを参照してインストールをおこなってください。

2. コンピュータにTCP/IPプロトコルがインストールされていることを確認します。「スタート」メニューから「ネットワーク接続」を選びます。「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選びます。「この接続は次の項目を使用します」の欄に「インターネットプロトコル（TCP/IP）」のチェックボックスがオンになっているか確認します。チェックボックスがオフになっている場合はオンにします。

3.TCP/IPプロトコルでネットワークを構築するためには、コンピュータ（ネットワークアダプタ）ごとに固有のIPアドレスを設定する必要があります。「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選び [プロパティ] をクリックします。

4.「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」の画面が表示されます。初期設定では「IPアドレスを自動的に取得する」にチェックがされています。画面上の「次のIPアドレスを使う」にチェックをします。IPアドレス、サブネットマスクが入力できるようになります。

インターネット プロトコル (TCP/IP)のプロパティ

全般　代替の構成

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

IP アドレスを自動的に取得する(O)
次の IP アドレスを使う(S):
IP アドレス(I):
サブネット マスク(U):
デフォルト ゲートウェイ(D):

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)
次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):
優先 DNS サーバー(P):
代替 DNS サーバー(A):

詳細設定(V)...

OK　キャンセル

5.IPアドレスに「192.168.1.x」(xは1～254の任意の値)、サブネットマスクに「255.255.255.0」に設定します。この例ではIPアドレスを「192.168.1.101」に設定します。
[OK]をクリックしてから、コンピュータを再起動してください。

インターネット プロトコル (TCP/IP)のプロパティ

全般

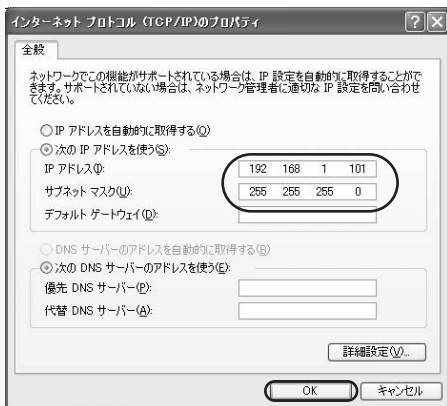
ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

○ IP アドレスを自動的に取得する(O)
◉ 次の IP アドレスを使う(S):
IP アドレス(I): 192 . 168 . 1 . 101
サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0
デフォルト ゲートウェイ(D):

○ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)
◉ 次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):
優先 DNS サーバー(P):
代替 DNS サーバー(A):

詳細設定(V)...

OK　キャンセル

●*注意*

ネットワーク上に同じIPアドレスは複数存在できません。起動時にIPアドレスの競合のメッセージが表示される場合は、IPアドレスを変更してください。
CS-MVTX01Fの初期設定は192.168.1.100です。100は使用できません。

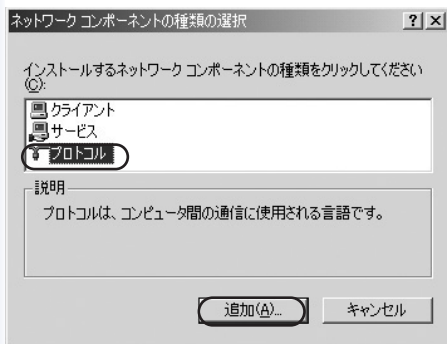
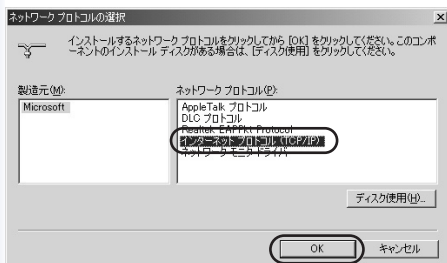
■Windows 2000

1.コンピュータにLANアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確認してください。LANアダプタがインストールされていない場合は、LANアダプタのマニュアルを参照してインストールをおこなってください。

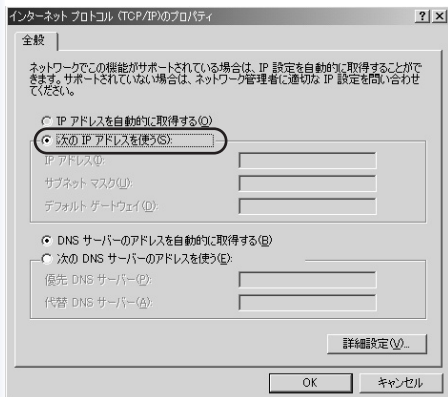
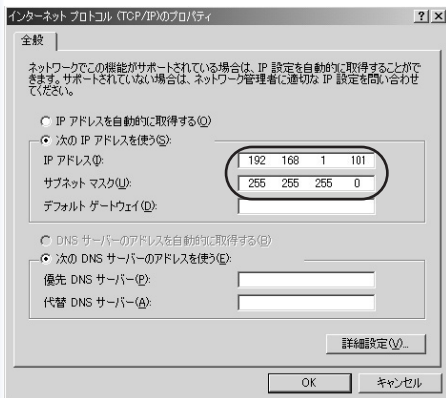
2.コンピュータにTCP/IPプロトコルがインストールされていることを確認します。「スタート」メニューから「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選びます。

3.「ネットワークとダイヤルアップ接続」が表示されます。「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選びます。

4.「チェックマークがオンになっているコンポーネントがこの接続で使用されています」の欄に「TCP/IP」が表示されているか確認してください。「TCP/IP」が表示されている場合表示されている場合は「8」へ進みます。

5.「ローカルエリア接続のプロパティ」内の「インストール」をクリックします。
「ネットワークコンポーネントの種類の選択」が表示されます。
「プロトコル」を選び [追加] をクリックします。

6.「ネットワークプロトコルの選択」が表示されます。
「ネットワークプロトコル」に表示される一覧から「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選び「OK」をクリックします。

7.「ローカルエリア接続のプロパティ」に戻ります。
「チェックマークがオンになっているコンポーネントがこの接続で使用されています」の欄に「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が追加されたか確認します。

8.TCP/IPプロトコルでネットワークを構築するためには、コンピュータ（ネットワークアダプタ）ごとに固有のIPアドレスを設定する必要があります。
「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選び [プロパティ]をクリックします。

9.「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」の画面が表示されます。初期設定では「IPアドレスを自動的に取得する」がチェックされています。画面上の「次のIPアドレスを使う」にチェックをします。IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイが入力できるようになります。

10.「IPアドレス」に「192.168.1.X」(Xは1～254の任意の値)、サブネットマスクに「255.255.255.0」と入力します。この例ではIPアドレスを「192.168.1.101」に設定します。[OK] をクリックします。

11.「ローカルエリア接続のプロパティ」の [OK] をクリックし画面を閉じます。コンピュータを再起動してください。

●注意

ネットワーク上に同じIPアドレスは複数存在できません。起動時にIPアドレスの競合のメッセージが表示される場合は、IPアドレスを変更してください。

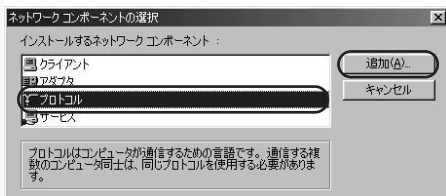
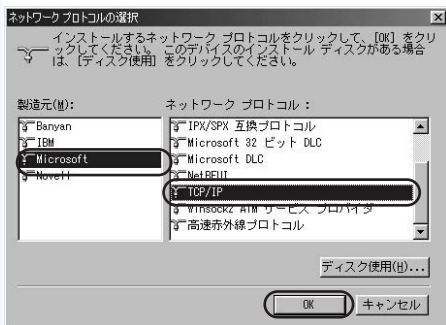
CS-MVTX01Fの初期設定は192.168.1.100です。100は使用できません。

■Windows Me/98SE

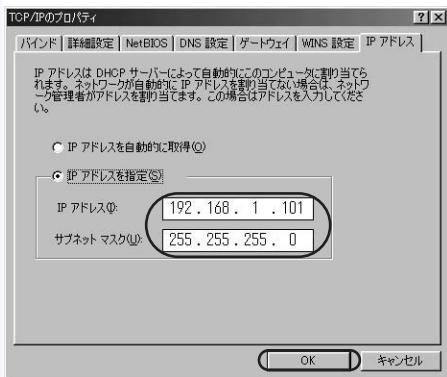
1.コンピュータにLANアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確認してください。LANアダプタがインストールされていない場合は、LANアダプタのマニュアルを参照してインストールをおこなってください。

2.コンピュータにTCP/IPプロトコルがインストールされていることを確認します。「スタート」メニューから「設定」→「コントロールパネル」をクリックします。「コントロールパネル」が表示されます。「ネットワーク」をダブルクリックします。
「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP」が表示されているか確認します。

※ご利用のLANアダプタにより表示される名称は異なります。「TCP/IP→ご利用のLANアダプタの名称」が表示されることをご確認ください。表示されていない場合は以下の手順で各コンポーネントを追加します。すでに「TCP/IP」が表示されている場合は「5」へ進みます。

3.「ネットワーク」内の [追加] をクリックします。
「ネットワークコンポーネントの選択」が表示されます。
「プロトコル」を選び [追加] をクリックします。

4.「ネットワークプロトコルの選択」が表示されます。「製造元」から「Microsoft」、「ネットワークプロトコル」から「TCP/IP」を選び [OK] をクリックします。

5.「現在のネットワークコンポーネント」欄の「TCP/IP」を選び、「プロパティ」をクリックします。「IPアドレス」タブをクリックします。初期設定では「IPアドレスを自動的に取得」にチェックがされています。画面上の「IPアドレスを指定」にチェックをします。IPアドレス、サブネットマスクが入力できるようになります。IPアドレスに「192.168.1.x」(xは1～254の任意の値)、サブネットマスクに「255.255.255.0」に設定します。この例ではIPアドレスを「192.168.1.101」に設定します。

[OK]をクリックしてから、コンピュータを再起動してください。

●*注意*

ネットワーク上に同じIPアドレスは複数存在できません。起動時にIPアドレスの競合のメッセージが表示される場合は、IPアドレスを変更してください。

CS-MVTX01Fの初期設定は192.168.1.100です。100は使用できません。

■その他のコンピュータまたはOS

ご利用のコンピュータまたはOSのマニュアル及びドキュメントを参照して、ネットワークプロトコルをTCP/IPに設定してください。IPアドレスを「192.168.1.x」(xは1～254の任意の値)、サブネットマスクを「255.255.255.0」に設定してください。

●注意

CS-MVTX01Fの初期設定は、192.168.1.100です。100以外を設定してください。

6.ユーティリティ

「CS ME-Watcher」と「Installation Wizard」の2つのオプションソフトウェアがインストールできます。

■CS ME-Watcherユーティリティ

下記の2種のユーティリティから構成されています。

CS ME-Watcher 再生　：録画した動画を再生するユーティリティ
CS ME-Watcher モニタ ：カメラの監視ユーティリティ

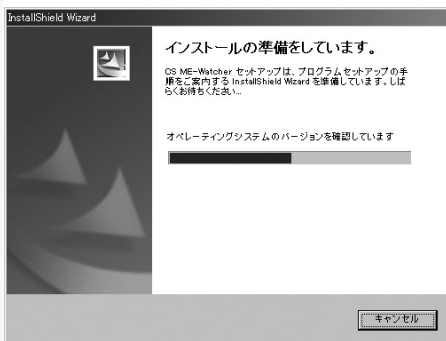
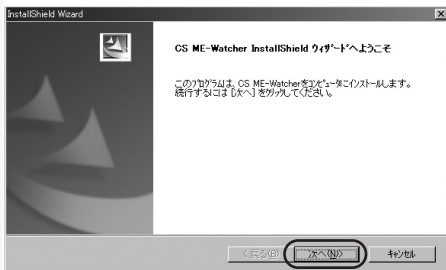
■Installation Wizard

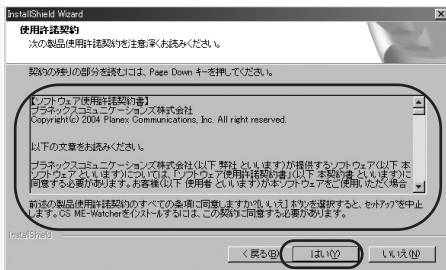
カメラのIPアドレスの検索、ファームウエア更新、初期化などができます。

1. CS ME-Watcherユーティリティの　インストール

●注意

ユーティリティのインストールは、管理者権限のユーザーで実行してください。

1.付属の「Manual & Utility」CD-ROMをコンピュータのCD/DVD-ROMドライブに入れます。または、ホームページ掲載のCS ME-Watcherをダウンロードし、Setup.exeをダブルクリックします。
自動的に「インストールの準備をしています。」が表示されます。

「CS ME-Watcher InstallShieldウィザードへようこそ」が表示されます。

2.[次へ]クリックします。

「使用承諾契約」が表示されます。

3.内容を確認し、[はい]をクリックします。

「ユーザ情報」が表示されます。

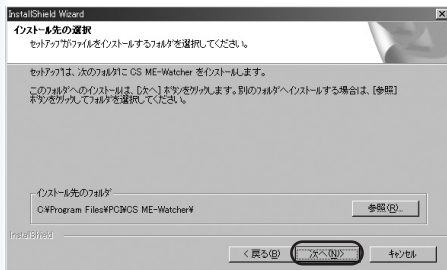
4.「ユーザ名」、「会社名」を入力し、[次へ]をクリックします。

「パスワード設定」が表示されます。

5.「パスワード」を入力します。「確認」のパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。

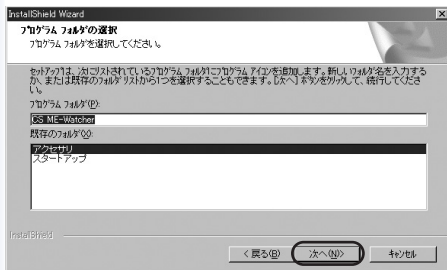
ワンポイント

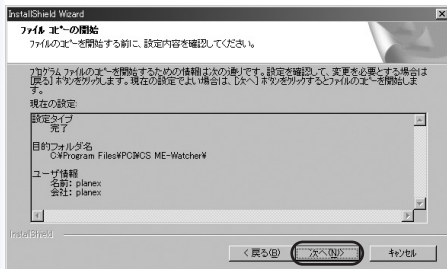
・「パスワード」と「確認」は同じものを入力してください。
・「CS ME-Watcher 再生」、「CS ME-Watcher モニタ」を使用するためのパスワードです。
・パスワードは6～14文字にしてください。
・大文字・小文字の区別があります。

「インストール先の選択」が表示されます。

6.[次へ]をクリックします。

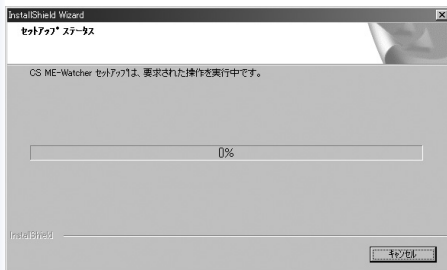
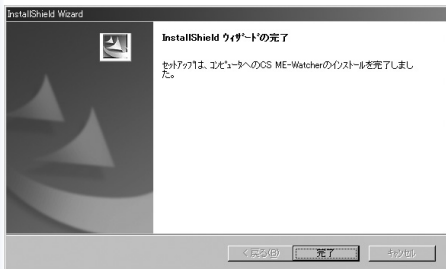
ワンポイント

・特に変更する必要はありません。

「プログラムフォルダの選択」が表示されます。

7.[次へ]をクリックします。

「ファイルコピーの開始」が表示されます。

「ファイルコピーの開始」では入力した情報を確認できます。

8.[次へ]をクリックしてください。

インストールがはじまり、「セットアップステータス」が表示されます。

「InstallShieldウィザードの完了」が表示されます。

9.[完了]をクリックしてください。

10.コンピュータを再起動してください。

※「再起動」が表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選び、[完了]をクリックします。

2. CS ME-Watcherユーティリティの起動

「スタート」メニューをクリックします。「プログラム」→「CS ME-Watcher」→「***」を選択します。(「***」:「CS ME-Watcherモニタ」、「CS ME-Watcher再生」)

ワンポイント
WindowsXPのときは、「スタート」→「全てのプログラム」→「CS ME-Watcher」→「***」になります。
デスクトップ上の「CS ME-Watcherモニタ」、「CS ME-Watcher再生」アイコンからも起動できます。

7.カメラの映像を表示する

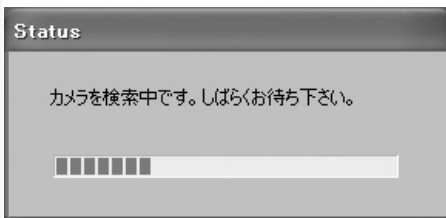
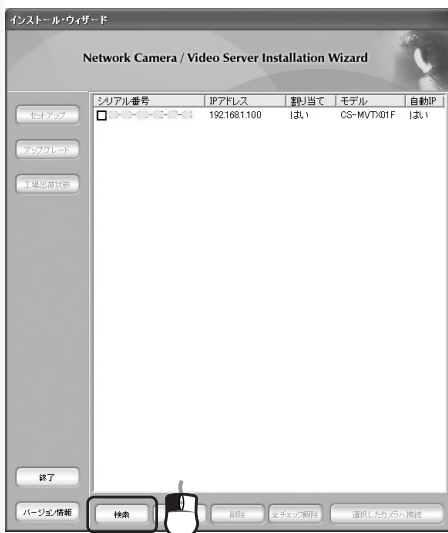
1 .カメラを検索する

Installation Wizardを使いLAN内に接続されたカメラを検索します。
※Installation Wzardの使用方法は、別冊の「Installation Wizard」
のユーザーズ・マニュアルを参照してください。

1-1.「スタート」をクリックします。

1-2.「プログラム」→「Installation Wizard」→「Installation
Wizard」をクリックします。

「インストール・ウィザード」が表示され、LAN内に接続された
カメラ(本製品)を自動的に検索します。
初期設定では、カメラのIPアドレスは、「192.168.1.100」に設定
されています。

LAN内に接続されたカメラ(本製品)を自動的に検索します。

■検索できないときは、[検索]をクリックしてください。
■「第5章 設定用コンピュータの準備」
（36ページ）を参照してください。

※複数のカメラが検出されたときは、本製品の底面のラベルに書かれたMACアドレスで識別します。
「第2章 2.本体後部」（16ページ）を参照してください。

2. カメラの映像を表示する

2-1.WEBブラウザを起動して、アドレス入力欄にInstallation Wizardで検索した「現在のIPアドレス」を入力します。
※初期設定では、「192.168.1.100」です。

アドレス(D) 192.168.1.100

2-2.「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、[OK]をクリックします。
WEBブラウザにカメラの映像が表示されます。

●Plug-inのインストール
初めてカメラの画面を表示するときに、「セキュリティの警告」が表示されることがあります。［はい］をクリックします。

WEBブラウザのセキュリティレベルによって、Plug-inの実行が許可されないときもあります。WEBブラウザのセキュリティ設定は、62ページを参照してください。

当Plug-inコントロールは、WEBブラウザで動画を表示するために使用します。

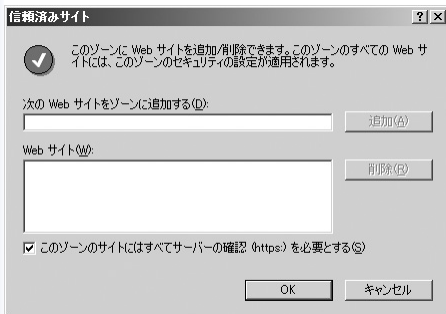
8.カメラの設定

1.WEBブラウザの設定

WEBブラウザの設定
カメラの画面を正しく表示するために、WEBブラウザの設定を確認してください。

1.Internet Explorerを起動します。
「ツール」→「インターネットオプション」をクリックします。

2.「セキュリティ」をクリックし、「信頼済みサイト」をクリックします。

3. [サイト] をクリックします。「信頼済みサイト」が表示されます。

4.「次のWebサイトをゾーンに追加する」にhttp://「Installation Wizardで検索されたIPアドレス/」を入力します。

（例:http://192.168.1.100/）

チェックボックスのチェックを外し、[追加] をクリックします。

5. [OK] をクリックします。

信頼済みサイト

このゾーンに Web サイトを追加/削除できます。このゾーンのすべての Web サイトには、このゾーンのセキュリティの設定が適用されます。

次の Web サイトをゾーンに追加する(D):

追加(A)

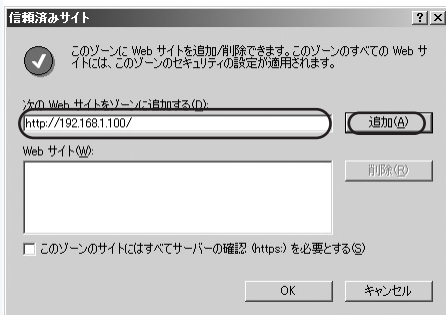
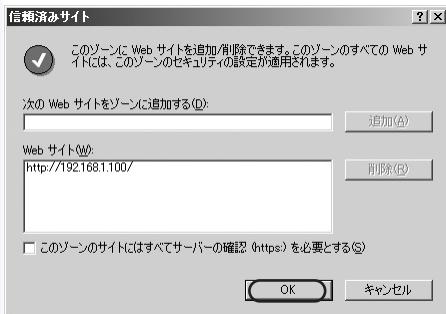
Web サイト(W):

http://192.168.1.100/

削除(R)

このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする(S)

OK

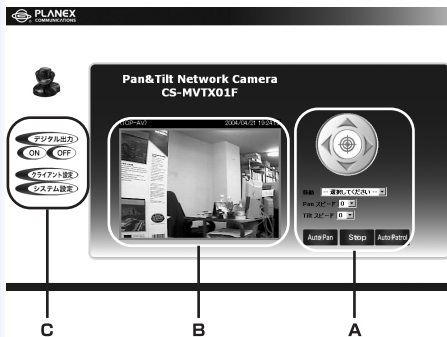
キャンセル

6.「インターネットオプション」ウィンドウに戻ります。
[OK] をクリックします。

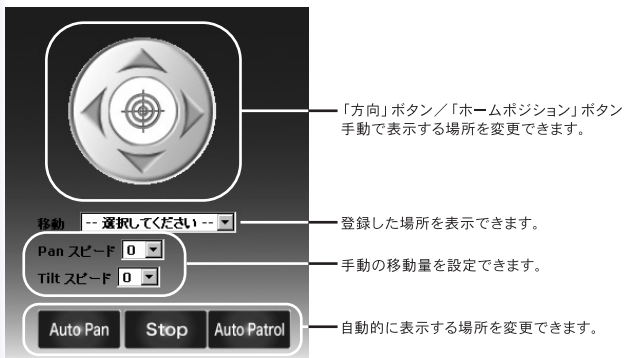
2.トップページ

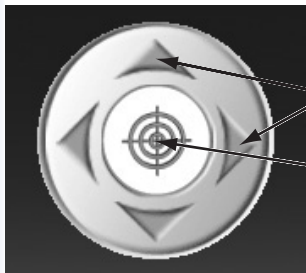
本製品のトップページは3つの部分で構成されています。

A パン/チルトコントロール
表示場所を変更（詳細は次ページを参照してください）

B カメラ映像画面
本製品の動画映像を表示

C 設定リンクフィールド
本製品の設定（詳細は「第8章 4.クライアント設定」（70ページ）を参照してください）

3.表示する場所を変更する (パン/チルトコントロール)

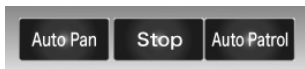
表示している場所をWEBブラウザ上から変更できます。

3-1.手動で変更する

Aパン/チルトコントロールの「方向」ボタン/「ホームポジション」ボタンを使って表示する場所を変更できます。

「方向」ボタン
ボタンをクリックすると、
パン(右、左)、チルト(上、下)に動きます。

「ホームポジション」ボタン
「方向」ボタンで動かす前の場所に戻ります。

「Panスピード」ボタン/「Tiltスピード」ボタンを使って移動量を変更できます。
標準値は「0」で標準値に対してより移動量を大きくしたいときは数字を大きく設定してください。
標準より移動量を小さくしたいときは数字をマイナス方向に設定してください。
「Panスピード」は水平(左右)、「Tiltスピード」は垂直(上下)の移動量を変更できます。

3-2.自動で変更する

・Aパン/チルトコントロールの「Auto Pan」ボタン/「Auto Patrol」ボタンを使って自動的に表示する場所を変更できます。

「Auto Pan」ボタン

垂直方向は固定したまま、左右方向へ自動的に表示します。

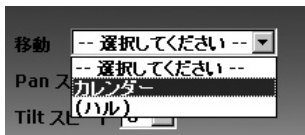
「Auto Patrol」ボタン

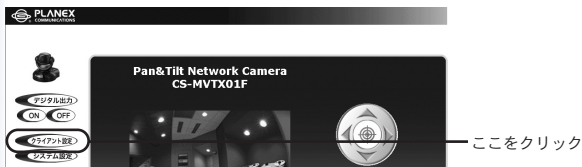
「システム設定」の「カメラコントロール」ページで「選択済みロケーション」に追加されているポジション順に自動的に表示します。

「Stop」ボタン

「Auto Pan」および「Auto Patrol」の動作を中止します。

・Aパン/チルトコントロールの「移動」から登録された場所を自動的に表示します。

「移動」のなかから表示したい場所を選択します。
自動的に選択された場所を表示します。
表示されるリストは、「第8章 5-6.カメラコントロール（90ページ）のプリセットポジション」の内容になります。

4. クライアント設定

トップページの「クライアント設定」をクリックします。

初めて「クライアント設定」にアクセスした際は、以下の警告画面が表示される場合があります。[はい] をクリックしてPlug-inをインストールしてください。ブラウザ側でインストールを拒否する場合は、インターネットセキュリティレベルを下げてください。

以下のクライアント設定画面が表示されます。

「メディアオプション」
音声を使用しないときはチェックを入れます。

「プロトコルオプション」
クライアントとサーバ間の接続プロトコルを選択します。

UDP ……音声および動画ストリームがよりリアルタイムで再生されますが、送信パケットの損失の可能性があるため、画像が不鮮明になる場合があります。

TCP ……パケット損失が発生せず画像も鮮明になりますが、リアルタイム効果はUDPプロトコルより劣ります。

HTTP …ファイアウォールが使用されており、HTTPポート(80)のみが開かれている場合はHTTPプロトコルのみ選択可能です。この場合は音声は送信されないため動画のみ閲覧できます。

5. システムの詳細設定

5-1.システム

本製品のホスト名や日時の設定等を行うことができます。

「デバイス名」

本製品のデバイス名を設定します。ブラウザでアクセスした時のタイトルにもなります。

「LEDをOFF」

本製品前面についている「Power/MIC」「Activity」のランプを消すことができます。ランプを消したい場合はチェックしてください。

「現在の日付/時間の保持」

現在本製品のタイマーで保持している日時をそのまま使います。

「PCの時間に同期」
接続しているコンピュータの日時と同期させます。選択して「保存」ボタンをクリックすると、その操作を行ったコンピュータの日時に本製品の日時に合わせます。

「手動設定」
日時を手動設定します。設定したい日時を設定して [保存] をクリックすると日時のカウントを開始します。

「自動設定」
設定されているNTPサーバへ日時の確認を行います。

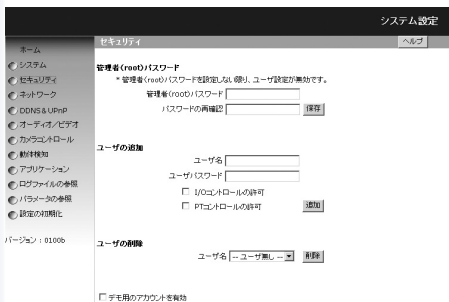
「NTPサーバ」
参照するNTPサーバのアドレスを入力してください。

「タイムゾーン」
標準時に対するズレを指定します。日本の場合「GMT+9:00」を選択してください。

「更新インターバル」
どのくらいの頻度でNTPサーバにアクセスして日時を修正するか選択します。「毎時」を選択すると1時間おきにNTPサーバへアクセスします。通常は「毎週」か「毎月」を選択してください。

「保存」
設定内容を保存する場合クリックしてください。

5-2.セキュリティ

本製品の管理者パスワードや、アクセスできるユーザ用のアカウントの作成が行えます。

「管理者（root）パスワード」

本製品の設定を行うユーザ用のパスワードを設定します。管理者は本製品アクセス時に「ユーザ名」に「root」を設定し、ここで設定したパスワードで接続すると、本製品の全ての設定を行うことができます。パスワードが設定できたら右側の [保存] ボタンをクリックしてください。

ユーザの追加・認証をするためには、管理者パスワードを設定する必要があります。

「ユーザの追加」

本製品にアクセスするユーザ用のアカウントを作成します。

「ユーザ名」

ログインする時のユーザ名を指定します。

「ユーザパスワード」
ログインする時のパスワードを指定します。

「I/Oコントロールの許可」
ログインユーザに「デジタル出力」のON/OFF設定を許可する場合はチェックしてください。

「PTコントロールの許可」
ログインユーザに「パン/チルトコントロール」の設定を許可する場合はチェックしてください。必要な項目を設定したら右側の「追加」ボタンをクリックしてください。ユーザアカウントが追加・作成されます。

「ユーザの削除」
作成したユーザアカウントを削除します。

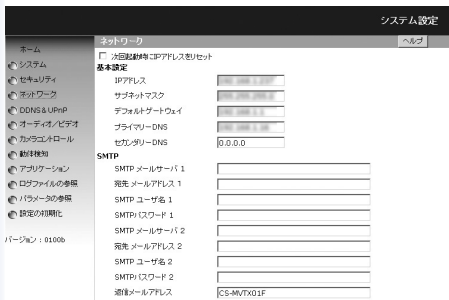
「ユーザ名」
リストから削除したいユーザ名を選択して右側の「削除」ボタンをクリックしてください。

「デモ用のアカウントを有効」
このオプションを有効にした場合は、カメラアクセス時に「demo」と入力すればパスワードの入力なしで画像を閲覧することができます。(設定画面にはアクセスできません)

「他のゲスト用のスナップショットホームページを有効」
制限数（10）以上のユーザがアクセスした場合に静止画を表示することでアクセスを継続できるようにします。「スナップショットインターバル」に設定した間隔で、撮影される画像が更新されます。設定できましたら右側の「保存」ボタンをクリックしてください。

5-3.ネットワーク

本製品のIPアドレス等ネットワーク関係の設定を行います。

基本設定

「次回起動時にIPアドレスをリセット」
このオプションを有効にして設定を保存すると、本製品が起動する度にIPアドレスがリセットされます。初期設定では、有効に設定されています。IPアドレスを固定するときは、チェックをオフにします。

「IPアドレス」
本製品のIPアドレスになります。出荷時は"192.168.1.100"に設定されています。

「サブネットマスク」
本製品のサブネットマスクです。出荷時は"255.255.255.0"に設定されています。

「デフォルトゲートウエイ」
本製品のデフォルトゲートウエイです。出荷時は設定されていません。ブロードバンドルータ環境で使用して、インターネットからカメラ画像を見る場合は、ルータのIPアドレスをここに設定します。

「プライマリーDNS」
ドメインネームサーバのアドレスを指定します。ご利用のプロバイダに指定されているDNSサーバアドレスを指定するか、ルータのIPアドレスを指定します。コンピュータの設定に合わせるのが確実です。

「セカンダリーDNS」
「プライマリーDNS」のバックアップ用です、特に指定されてない場合は設定する必要はありません。

SMTP

メールを使ってデータを送信する場合に使用します。SMTP設定は「1」と「2」の2種類が設定可能です。通常は「1」の設定が利用されますが、「1」で指定されたメールサーバが利用できなかった場合「2」の設定が利用されます。「2」は設定しなくても利用可能です。設定が判らない場合はメールソフトの設定内容を確認してください。

「SMTPメールサーバ1」
利用しているメールサーバのドメイン名もしくはIPアドレスを設定してください。

「宛先メールアドレス1」
画像ファイルを送信する宛先のメールアドレスを設定してください。ここに設定したメールアドレス宛に画像ファイルを送信します。複数の宛先を指定する場合は、アドレスの間に「;(セミコロン)」を入れてください。

（例:test@test.co.jp;user@test.com）

「SMTPユーザ名1」
メールサーバ利用時のユーザ名を入力します。

「SMTPパスワード1」
メールサーバ利用時のパスワードを入力します。

「SMTPメールサーバ2」

「宛先メールアドレス2」

「返信メールアドレス」
メール送信が失敗した場合に、その通知を送信する返信用のメールアドレスです。

※プロバイダによっては、この機能が使えないこともあります。

FTP

スナップショット(静止画像)をFTPサーバへ送信する場合に使用します。「1」の設定がデフォルトで利用されます。「2」の設定は「1」で設定したFTPサーバが利用できなかった場合のバックアップ用の設定になります。

「FTPサーバのポート番号」
FTPサーバとの通信に使用するポート番号を指定します。通常は出荷時の「21」のままご利用ください。変更した場合は外部FTPクライアント側でもサーバポートの設定を変更する必要があります。

「FTPサーバ1」
アップロード先のFTPサーバのドメインもしくはIPアドレスを設定します。

「FTPユーザ名1」
アップロード先のFTPサーバにログインする際のユーザ名を設定します。

「FTPパスワード1」
アップロード先のFTPサーバにログインする際のパスワードを設定します。

「フォルダ名1」
アップロード先になるFTPサーバ上のフォルダを設定します。

「プライマリFTPパッシブモード」
本製品がブロードバンドルータ等ファイアウォールにより保護されているネットワークの内部で使用されている場合、FTPへのデータ接続は禁止される可能性があります。本オプションを有効にすると、この制限を回避してスナップショットのアップロードを行うことが可能です。外部FTPサーバ側でパッシブモードに対応していない場合にパッシブモードを選択すると、本製品は自動的にアクティブモードで接続を行います。

「FTPサーバ2」

「FTPユーザ名2」

「FTPパスワード2」

「フォルダ名2」

「セカンダリFTPパッシブモード」

HTTP
画像データをHTTPを使って送信する場合のポート番号を設定します。

「HTTPサーバポート番号」
出荷時のポート番号は「80」が設定されています。すでにウェブサーバを設置している場合や、他にポート80を利用している機器がある場合は番号を変更してください。また、外部公開するときは、複数の本製品を使用する場合はカメラごとにこの番号を重複しないよう変更してください。

ストリーミング
ストリーミングデータの送信に使用するポート番号を変更することができます。通常は出荷時のままご利用いただいて構いません。既に該当するポートを使用しているとき、変更してください。

「コントロールチャンネルポート」
カメラの向き等をコントロールするのに使用するポートを指定します。初期値は5001です。

「ビデオチャンネルポート」
画像データを送信するのに使用するポートを指定します。
初期値は5003です。

「オーディオチャンネルポート」
音声データを送信するのに使用するポートを指定します。
初期値は5002です。

「保存」
設定内容を保存する場合クリックしてください。

5-4.DDNS&UPnP

ダイナミックDNSとUPnP機能の設定を行います。

DynamicDNS

ダイナミックDNS(以下DDNS)とは動的IPアドレスの環境でドメイン名でアクセスできるようにする機能です。
本製品では「DynDNS.org(Dynamic)」に対応しています。

ダイナミックDNSの更新は、10分毎におこないます。

●*注意*

本製品のダイナミックDNS機能は、10分毎に更新をおこないます。
また、常時接続状態を前提としているため、下記の場合も更新の確認をします。

- *はじめてダイナミックDNS機能の設定をおこない、有効にしたとき*
- *ダイナミックDNSの設定を変更・保存したとき*
- *インターネットとの接続が確立したとき*
- *WAN側ポートIPアドレスが変化したとき*

なお、ブロードバンドルータ環境でご利用の場合、ルータがダイナミックDNSに対応しているときはルータのダイナミックDNS機能をご利用ください。

「DDNSを有効」
本製品のDDNS機能を利用する場合はチェックしてください。

「プロバイダ」
DDNSサービスを登録したサービス名を選択してください。

「ホスト名」
DDNSサービスで登録したホスト名を設定してください。
例:webcamera.dyndns.org で登録した場合「webcamera」と設定してください。

「ユーザ名/メール」
DDNSサーバへ登録したユーザ名、メールアドレスで登録した場合はメールアドレスを設定してください。

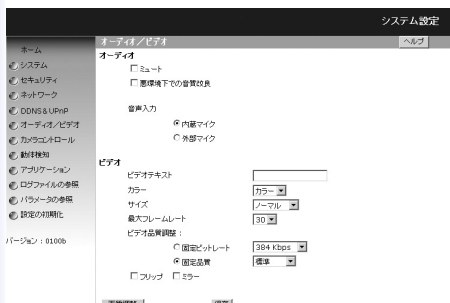
「パスワード/キー」
DDNSサーバへ登録したパスワードまたはキーを設定してください。

Universal PnP
本製品のUPnP機能を設定します。UPnP機能でカメラを認識します。

「UPnPを有効」
このオプションにチェックをすると、本製品のUPnP機能が有効になります。

「保存」
設定内容を保存する場合クリックしてください。

5-5.オーディオ/ビデオ

音声の設定とビデオ画像の設定を行うことができます。

オーディオ

「ミュート」
音声を再生しないようにします。

「悪環境下での音質改善」
回線速度の遅い環境で音声品質が悪い場合、このオプションを有効にすると音質が良くなりますが、映像に対する音声の同期性が低下します。

「オーディオソース」
「内蔵マイク」をチェックするとカメラ内蔵のマイクを使用します。
「外部マイク」をチェックすると、マイク接続端子に接続した機器を使用します。

ビデオ

「ビデオテキスト」
こちらに設定した名前が、日付・時刻と共にビデオウインドウのタイトルバーに表示されます。

「カラー」
表示画像をカラーにするか白黒にするか設定します。
「カラー」を選択すると再生画像がカラー表示になります。
「白黒」を選択すると再生画像が白黒表示になります。

「サイズ」
画像の表示サイズを設定します。
「ハーフ」176×120
「ハーフ×2」352×240（「ハーフ」を2倍に拡大表示するため画質はハーフより落ちます）
「ノーマル」352×240

「最大フレームレート」
動画像の1秒あたりの枚数を設定します。数字が大きいほどコマ数が増えるので滑らかな動画になりますが、それだけ回線速度が必要になります。関東など50Hzの地域では「25」、関西など60Hzの地域では「30」を基本にしてください。
初期値は「30」です。

「ビデオ品質調整」
動作品質の設定を行います。カメラの画像データを送信する回線に合わせて設定を行ってください。

「固定ビットレート」
このオプションで設定を行う場合は、選択する数字が大きいほど高品質な動画になりますが、それだけ速い回線が必要になります。初期値は「384Kbps」です。

「固定品質」
このオプションで設定を行う場合は、選択する項目により「ミディアム(悪い) -> 最良(良い)」となります。
「最良」を選択すると高品質な動画になりますが、それだけ速い回線が必要になります。初期値は「標準」です。

「フリップ」
カメラ画像を縦方向に反転して表示します。初期値は「無効」です。

「ミラー」
カメラ画像を横方向に反転して表示します。カメラを逆さまに設置するような場合、「フリップ」と「ミラー」にチェックを入れることで正常な画像としてみることができます。
設定ができたら「保存」ボタンをクリックしてください。
初期値は「無効」です。

「イメージ設定」
カメラ画像の彩度、明度、コントラストや色調を調整します。

輝度	+0	彩度	+0
コントラスト	+0	色調	+0

プレビュー　元の設定に戻す　保存　閉じる

「輝度、彩度、コントラスト、色調」
カメラ画像の各項目の設定を「-5~+5」の範囲で設定できます。

「プレビュー」
設定したカメラ画像を確認できます。

「リセット」
デフォルト設定に戻ります。

「保存」
設定内容が有効になります。

「閉じる」
「イメージ設定」ウインドウを閉じます。

5-6.カメラコントロール

カメラの向いている方向を操作することができます。

「右」「左」「上」「下」

カメラの向きを操作したい場合、その方向のボタンをクリックしてください。

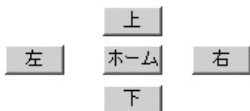
「ホーム」

カメラの向きを中央に戻したい場合に押してください。

「Pan スピード」

カメラの水平方向に動くスピード(移動量)を設定します。

「0」を基準にマイナス方向に設定すると、数字が大きいほど一度に移動する量がより小さくなります。プラス方向に設定すると、数字が大きいほど一度に移動する量がより大きくなります。

「Tilt スピード」
カメラの垂直方向に動く移動量を設定します。
「0」を基準にマイナス方向に設定すると、数字が大きいほど一度に移動する量がより小さくなります。プラス方向に設定すると、数字が大きいほど一度に移動する量がより大きく(スピードが速く)なります。

「Auto Pan/Auto Patrol スピード」
「Auto Pan」や「Auto Patrol」を選択した時の移動速度を設定します。より大きい数字を選択するほど「Auto Pan」や「Auto Patrol」を選択した時に、すばやくカメラの方向を移動するようになります。

「赤外線コントロール」
本製品付属のリモコンでカメラを制御する場合にチェックを入れてください。

「現在地」
カメラにアクセスした時に表示されるカメラの名前になります。「上、下、左、右」ボタンでカメラの向きを設定した後、ここに名前を入れて右側の「追加」ボタンをクリックすると、その名前とカメラの方向データが「プリセットポジション」と「プリセットロケーション」に追加されます。

「プリセットポジション」
設定済みのプリセットデータを削除します。
削除したい名前を選択して、右側の「削除」ボタンをクリックしてください。

「停止時間」
「Auto Patrol」を選択した時に、選択ポジションになった時の停止時間を設定します。「3」と設定した場合、カメラポジションが移動するごとに3秒停止してから、次のカメラポジションへ移動します。

「Patrol選択」
「Auto Patrol」選択時に、どの順番でポジションを移動するか選択します。「プリセットポジション」に予め設定されているカメラのポジションが選択されているので、追加する現在地名を選択して「選択」ボタンをクリックしてください。「選択済みロケーション」に追加されます。「Auto Patrol」で再生される順番は、追加された順番に処理されます。

「保存」
設定内容を保存する場合

「赤外線コントロール」
付属の赤外線リモコンでの操作を有効にします。リモコンからの操作を禁止したい場合はこのオプションを無効にしてください。

「現在地」
カメラのポジション(撮影方向)を新規に登録する場合は、まず目的の方向へ調整を行ってから「現在地」ボックスに名前を入力して「追加」ボタンをクリックしてください。追加したポジションデータは「プリセットロケーション」ボックスに追加されます。ポジションのデータは最大20箇所の登録が可能です。

「保存」
設定内容を保存する場合クリックしてください。

5-7.動体検知

撮影している画像に変化があった場合、それをトリガーとして画像をメールやFTPで送信することができます。

「動体検知を有効」
動体検知機能を有効にする場合チェックしてください。

「検知地域の名前」
検知範囲ごとの名前を設定します。本製品では1つの画面上で、検知する場所を3箇所設定することができます。

「感度」
検知範囲の感度を設定します。より高く設定すると少しの変化でも反応するようになりますが、あまり高く設定すると照明のチラつきでも反応するので、変更しながら丁度いい値に設定してください。

「変化比率」
検知範囲で画像にどのくらい変化があったら反応するか設定します。より低く設定すると小さな変化でも反応するようになりますが、虫が通っただけでも反応するので、変更しながら丁度いい値に設定してください。

「新規」
新しい検知ウインドウを作成する場合にクリックしてください。最大で3つの範囲を表示させることができます。

「保存」
設定内容を保存する場合クリックしてください。
「感度」等を変更した場合「保存」をクリックしないと有効になりませんのでご注意ください。なお、設定は検知ウインドウごとになりますので、アクティブになって(選択されて)いるウインドウごとに「感度」と「変化比率」を設定してください。

設定手順は、まず「新規」をクリックして検知範囲ウインドウを表示させます。

検知する場所へウインドウを移動させて、範囲を変更してください。続いて「感度」と「変化比率」を設定して、「検知地域の名前」に任意の名前を入力して [保存] ボタンをクリックすると、設定内容が保存されます。
感度の確認は [新規] ボタン左のバーで確認できます。バーの色が緑の場合は画像変化が設定したレベル以下であることを示し、赤の場合は画像変化が設定したレベルを超えたことを表します。

内容を変更したときは[保存] をクリックしてください。

検知範囲を削除する場合は、撮影画面上の検知範囲ウインドウの右上の「×」をクリックすると削除されます。削除したら「保存」ボタンをクリックしてください。

5-8.アプリケーション

タイムスケジュールや動体検知を使って撮影画像をメール送信したり、FTPで送信するための設定を行います。

「曜日スケジュール」

撮影を行う曜日や時間帯の設定を行います。初期値は、すべて無効です。

☐ イベント動作

基本設定

イベントが発生してから 3 秒遅れて再検知

イベント後 1 秒でスナップショットを取る

トリガー条件

☐ 入力電圧が高 ☐ 入力電圧が低 ☐ 入力電圧が上昇 ☐ 入力電圧が下降

モーション検知：

☐ 未定義 ☐ 未定義 ☐ 未定義

注：まずは：モーション検知 を設定してください。

トリガーアクション

☐ 条件になったら、アラームをトリガーする

☐ モーション検知されたら、アラームをトリガーする

☐ 条件になったら、スナップショットを送信する

☐ モーション検知されたら、スナップショットを送信する

☐ **出力リセット**

「日曜日˜土曜日」

撮影を行う曜日を指定します。

「スナップショット開始時間」

撮影開始時間を指定します。

「スナップショット終了時間」

撮影終了時間を指定します。

「上記以外の時間」
上記で設定された曜日と時間帯以外に機能するようになります。
初期値は無効です。

「イベント動作」
画面撮影のトリガー(条件)や、検知間隔等の設定を行います。
イベント動作の条件を有効にする場合は「イベント動作」にチェックを入れてください。初期値は無効です。

「基本動作」
イベント発生時の動作の設定を行います。

「次の検知までの時間」
イベントが発生してから、次にイベント検知を行うまでの時間を設定します。仮に「30」と設定すると、例えば動体検知してから画像撮影後30秒しないと検知を行うことができません。小さくすれば頻繁に検知を行うことができますが、イベント検出の条件によっては撮影枚数が膨大になりますので注意してください。
999秒まで設定可能です。

「検知してから撮影までの時間」
イベントが発生してから実際に撮影するまでの時間を設定します。
仮に「10」と設定すると、例えば動体検知すると検知直前と検知時の画像を撮影してから、その10秒後に映っている画像を撮影します。(つまり一度の動作で3枚の画像を撮影します)
999秒まで設定可能です。

「トリガー条件」
どのイベント(項目)を撮影するためのトリガーとするか指定します。初期値は、すべて無効です。

「入力電圧が高、入力電圧が低、入力電圧が上昇、入力電圧が下降」

デジタル端子に接続された外部機器からの入力をトリガーにする場合の条件を設定します。「入力電圧が高/低」を選択すると、レベル・トリガーの外部ボルテージ入力を指し、「入力電圧が上昇/下降」を選択すると、エッジ・トリガーの外部ボルテージ入力を指します。デジタル端子を使わない場合はこれらのオプションは使用しません。初期値は無効です。

「動体検知」
動体検知機能をトリガーにする場合に、トリガー対象にする検知範囲を指定します。「動体検知」で追加した検知ウインドウの「検知地域の名前」に設定した名前で表示されます(「未定義」と表示されている場合は、その設定は存在しません)。トリガーにしたい項目にチェックを入れてください。

「トリガーアクション」
デジタル入力の条件、またはモーション検知の条件を満たした時の動作を指定します。初期値はすべて無効です。

「条件になったら、アラームをトリガーする」
「トリガー条件」でデジタル端子に接続された外部機器からの入力を選択した場合、「トリガー条件」を満たすとデジタル端子の出力を使って外部機器への接続を行います。

「動体検知されたら、アラームをトリガーする」
「トリガー条件」で「動体検知」を選択した場合、動体を検知するとデジタル端子の出力を使って外部機器への接続を行います。

「条件になったら、スナップショットを送信する」
「トリガー条件」でデジタル端子に接続された外部機器からの入力を選択した場合、「トリガー条件」を満たすとメールもしくはFTPにて撮影画像を送信します。

「動体検知されたら、スナップショットを送信する」
「トリガー条件」で「動体検知」を選択した場合、動体を検知するとメールもしくはFTPにて撮影画像を送信します。

メールもしくはFTPで画像を送信するとき、以下の3枚のファイル名の画像が送信されます。

- vpre.jpg　　イベント前の撮影画像を指します。
- vtrg.jpg　　イベントと同時の撮影画像を指します。
- vpos.jpg　　イベント発生後「検知してから撮影までの時間」経過後の撮影画像を指します。

「出力リセット」
アラーム発生時に、外部端子への電源供給をオフにします。
初期値は無効です。

「シーケンシャルオペレーション」
カメラの撮影画像をメール送信、またはFTPサーバへ送信する時間の間隔になります。このオプションを有効に設定すると、曜日スケジュースで指定された曜日と時間帯に従って、指定された間隔で撮影画像をメールまたはFTPサーバへ送信します。
仮に「10」と設定した場合、所定の時間になったら10秒間隔で撮影画像を指定された方法で送信します。
最大99999秒まで入力できます。

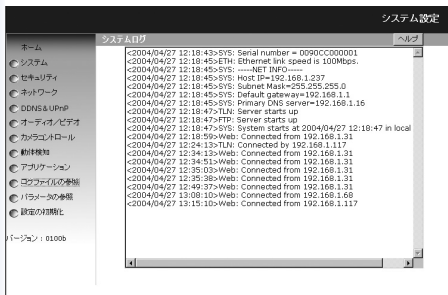
☐ シーケンシャル オペレーション
0 秒ごとにスナップショット
◉ スナップショットをメールで送信
○ スナップショットをFTPで送信
☐ FTPスナップショットは、日付/時刻を付加

「スナップショットをメールで送信」
撮影した画像をメールで送信する場合、こちらをチェックしてください。
送信先は「3.ネットワーク」で設定したメールアドレスもしくはFTPサーバになります。

「スナップショットをFTPで送信」
撮影した画像をFTPサーバに送信する場合、こちらをチェックしてください。
送信先は「3.ネットワーク」で設定したメールアドレスもしくはFTPサーバになります。

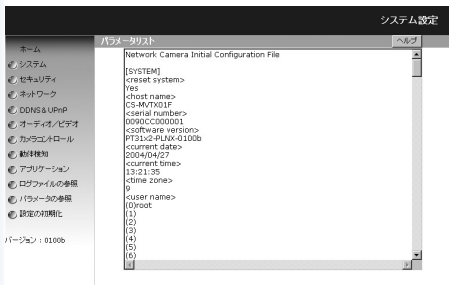
「FTPスナップショットは、日付/時刻を付加」
FTPサーバに撮影画像を送信する場合に、ファイル名に日時をつけて送信します。

5-9.ログファイルの参照

本製品に対するアクセス履歴などを確認することができます。

「システムログ」

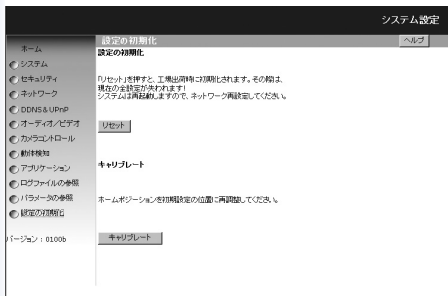
本製品の起動時やアクセスされたログ等が記録されます。

5-10.パラメータの参照

本製品の設定内容を確認することができます。

「パラメータリスト」

現在の本製品の各種の設定内容が表示されます。

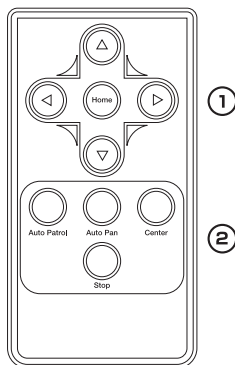
5-11.設定の初期化

本製品の設定を初期化できます。

「設定の初期化」
「リセット」ボタンをクリックすると、本製品の設定が出荷時の状態にリセットされます。

「キャリブレート」
カメラ位置を電源を入れた時の状態に戻します。

9. リモコンの使い方

1. リモコンの操作方法

付属のリモコンを使って、レンズの位置を変更できます。

① 手動でレンズの位置を変更できます。

・方向ボタン

レンズの位置を三角の方向に変更できます。

▲：上　▼：下　◀：左　▶：右

・Homeボタン

方向ボタンで動かす前の位置にレンズを戻します。

② 自動でレンズの位置を変更できます。

・**Auto-Patrolボタン**
選択済みロケーションに登録された順にカメラの方向が移動します。Auto-Patrolの設定は「第8章 5-6.カメラコントロール(90ページ)」を参照してください。

・**Auto-Panボタン**
自動的に左右にレンズが動きます。詳細は「第8章 5-6.カメラコントロール(90ページ)」を参照してください。

・**Centerボタン**
レンズの位置を正面にします。

・**Stopボタン**
Auto-Patrol、Auto-Pan動作中のカメラを止めます。

※ カメラが動かないときは

(1) カメラの電源が入っていることを確認します。
(2) リモコンの送信部(「第2章 5.リモコン(21ページ)」を参照)、カメラの受信部(「第2章 1.本体前部 (14ページ)」を参照)が破損または汚れがないことを確認してください。
(3) リモコンのボタン電池を確認してください。ボタン電池はCR2025です。これ以外のものは使用できません。
(4) リモコンのボタン電池を交換してください。
(5) カメラコントロールの設定で「赤外線コントロール」のチェックボックスをオンにします。チェックボックスがオフのとき、リモコンは使用できません。「第8章 5-6.カメラコントロール (90ページ)」を参照してください。

10.ファームウエアのアップデート

1.ファームウエアのアップデート手順

本製品のファームウエアのアップデート手順です。

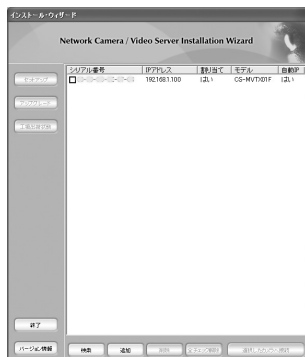
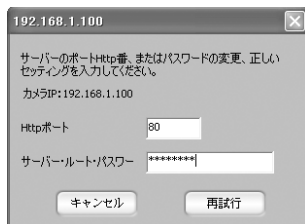
●*注意*

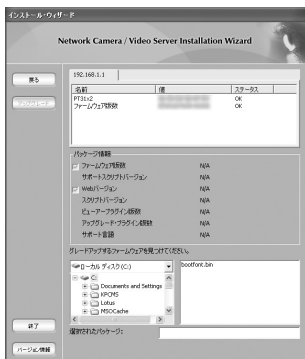
・ファームウエアを適用する前に現在の設定情報をメモに書き留めてください。ファームウエアをアップデートすると、登録されたアカウント情報、ロケーションの設定は消えます。
・ファームウエアの適用作業は、同じネットワークセグメントのコンピュータから実施してください。
・ファームウエアの適用作業中は、以下の点をお守りください。守られないときは、ファームウエアの適用に失敗し、復旧不能となる恐れがあります。
a）本製品と適用作業に使用するコンピュータだけを接続してください
b）適用作業に使用するコンピュータ以外のネットワーク機器は必ず取り外してください
c）適用作業中は本製品と使用するコンピュータの電源は絶対に切らないでください
d）適用作業中はネットワークケーブルを抜かないでください
e）適用作業中は作業以外のネットワークの通信をしないでください
f）適用作業中は不要な操作をしないでください

ここでは、例として「C:¥Firm」に「FLASH.BIN」を保存した場合で説明します。

1-1.「スタート」→「プログラム」→「Installation Wizard」→「Installation Wizard」をクリックします。

「インストール・ウィザード」が表示されます。

1-2.該当するカメラのシリアル番号をクリックしてチェックを入れ、[アップグレード]をクリックします。

1-3.パスワードが設定されている場合、パスワードの入力が求められます。「サーバー・ルートパスワード」にrootのパスワードを入力して[再試行]をクリックします。
※初期設定では、パスワードは設定されていません。

「インストール・ウィザード」に戻ります。

1-4.「ローカルディスク(C:)」を選び、下部で「Firm」を選びます。「FLASH.BIN」をクリックしてハイライト表示させ、［アップグレード］をクリックします。

「アップデートプログラム」が表示されます。

1-5.「完了」をクリックします。

以上でファームウエアの更新が完了しました。Installation Wizardの使用方法の詳細は「Installation Wizard」マニュアル(別冊)を参照してください。

11.他のコンピュータから本製品の映像を見る

1. ハブやスイッチ経由でLANのカメラとして使うとき

ブラウザを起動し、「アドレス」に「http://xxx.xxx.x.xxx」と本製品のIPアドレスを入力してEnterキーを押してください。設定画面と共にカメラが映している映像がWEBブラウザ上に表示されます。

2. ルータを介してインターネット上に公開したいとき

ADSLや光接続の環境でブロードバンドルータ(以下BBルータ)を使用してインターネットからカメラにアクセスさせたい場合は、BBルータ側でインターネットからのアクセスをLAN上のコンピュータへ転送する機能(「ローカルサーバ機能」や「ポートフォワーディング機能」や「静的マスカレード機能」等と呼ばれます)を使って、外部からのアクセスをカメラに転送する設定が必要になります。
ここでは弊社製品「BRL-04FMX」を使って公開する場合の設定例をご紹介します。(本製品のIPアドレスは出荷時のままと仮定します。)

1.BBルータの設定画面にアクセスしてください。

2.「ルータ設定」を選び「NAPT」をクリックしてください。

3.「静的マスカレード」の「静的マスカレードの追加」ボタンをクリックしてください。

4.各項目を以下のように設定してください。

静的マスカレードID:任意の番号を設定してください
プロトコル:TCP&UDP
リモートIPアドレス:*
リモートポート:*
外部IPアドレス:WAN側ポートIPアドレス
外部ポート:80
内部IPアドレス:192.168.1.100
内部ポート:外部ポートと同じ

5.設定できましたら [設定] をクリックしてください。

以上でBBルータの設定は完了です。
インターネットからアクセスする場合は、WEBブラウザの「アドレス」にBBルータが取得しているWAN側IPアドレスを指定してください(例: http://21*.11*.7*.10*)。
その際、設定画面にアクセスさせたくない場合は72ページ「2.ユーザアカウントの設定」を参考に、予めユーザアカウントを作成して、アクセス時に決められたユーザ名とパスワードでアクセスしてください。

BRL-04FMX以外のBBルータについては、ご利用のBBルータのマニュアルをご参照ください。

「複数のCS-MVTX01Fを接続する場合の設定」

ここでは弊社製品「BRL-04FMX」を使ってインターネットに接続している環境で、本製品を複数設置してインターネットからアクセスさせる場合の設定例をご紹介します。

カメラ側の設定

1.本製品の設定画面にアクセスして「システム設定」の「ネットワーク設定」画面の「IPアドレス」と「HTTP」の番号を重複しないように、それぞれ設定を変更してください。

例:
CS-MVTX01F 1台目
IPアドレス: 192.168.1.100、 HTTPポート: 80

CS-MVTX01F 2台目
IPアドレス: 192.168.1.101、 HTTPポート: 81

CS-MVTX01F 3台目
IPアドレス: 192.168.1.102、 HTTPポート: 82

カメラと同じネットワーク上のコンピュータからカメラにアクセスする場合は「例 http://192.168.1.102:82」のように、カメラのIPアドレスの最後にポート番号を追加してアクセスしてください。

ブロードバンドルータ側の設定

また、ブロードバンドルータ環境でインターネットから複数のカメラにアクセスをする場合は、「ブロードバンドルータ環境で、インターネットからカメラにアクセスさせたい場合」で紹介しているようなポート転送の設定をカメラの台数分行う必要があります。BRL-04FMXの静的マスカレードを使った場合の設定例を記載しますので、こちらを参考にご利用のルータの該当機能の設定を行ってください。
各カメラのIPアドレスとポート番号は下記の設定例をもとに説明します。

1台目IPアドレス	192.168.1.100 ポート80
2台目IPアドレス	192.168.1.100 ポート81
3台目IPアドレス	192.168.1.100 ポート82

1.ルータの設定画面にアクセスしてください。

2.「ルータ設定」を選び「NAPT」をクリックしてください。

3.「静的マスカレード」の [静的マスカレードの追加] ボタンをクリックして、各項目を以下のように設定してください。

1台目用の設定

静的マスカレードID:任意の番号を設定してください
プロトコル:TCP&UDP
リモートIPアドレス:*
リモートポート:*
外部IPアドレス:WAN側ポートIPアドレス
外部ポート:80
内部IPアドレス:192.168.1.100
内部ポート:外部ポートと同じ

2台目用の設定

静的マスカレードID:任意の番号を設定してください
プロトコル:TCP&UDP
リモートIPアドレス:*
リモートポート:*
外部IPアドレス:WAN側ポートIPアドレス
外部ポート:81
内部IPアドレス:192.168.1.101
内部ポート:外部ポートと同じ

3台目用の設定

静的マスカレードID:任意の番号を設定してください
プロトコル:TCP&UDP
リモートIPアドレス:*
リモートポート:*
外部IPアドレス:WAN側ポートIPアドレス
外部ポート:82
内部IPアドレス:192.168.1.102
内部ポート:外部ポートと同じ

4.インターネットからそれぞれのカメラにアクセスする場合。
WEBブラウザの「アドレス」にBBルータが取得しているWAN側IPアドレスと、アクセスしたいカメラのポート番号を指定してください。1台目のカメラにアクセスする場合は

「例: http://21*.11*.7*.10*」 もしくは

「例: http://21*.11*.7*.10*:80」

となります。2台目のカメラにアクセスする場合はIPアドレスは同じで最後の「:」以降の番号を変更します。

「例: http://21*.11*.7*.10*:81」

3台目のカメラにアクセスする場合は

「例: http://21*.11*.7*.10*:82」となります。

3. オープンサイトを作りたい

WEBサーバをお持ちの場合、ご自分のWEB ページにカメラのイメージを取り込むことができます。

■ FTPサービスが利用できる場合

「大規模アクセスサイトを公開したい」(138ページ)の説明にしたがってFTPサーバの設定、及びスケジュールの設定をおこないます。

以下HTMLソースのサンプルを参照し、FTP経由でアップロードした画像ファイルを表示するホームページを作ります。
<IMG>タグを使用すれば簡単に画像を組み込むことができます。

記述例)

```
<HTML><HEAD><TITLE>My Homepage</TITLE></HEAD>
<BODY>
<CENTER>
<HR><FONT SIZE="5"><B>My Camera</B></FONT><BR>
<HR>
<BR>
<BR><HR><BR>
<FONT SIZE="2">
<A HREF="/album/family.html">マイ アルバム</A>¦
<A HREF="/index.html">トップページ へ</A><BR><BR>
<A HREF="/help/index.html">ヘルプ</A>¦
<A HREF="questions/index.html">お問い合わせはこちら
</FONT></A>
<BR><BR>
</CENTER>
</BODY>
</HTML>
```

IMG SRC="video.jpg"
 FTPサーバにアップロードしたカメラの画像"video.jpg"を指定します。HTMLファイルと別な場所に画像を送信している場合は、「video.jpg」の前にフォルダも指定してください。

width="320" height="240"

画面に表示される画像のサイズを指定します

■ FTPサービスが利用できない場合

自動更新をおこなうホームページを使ってカメラから定期的に最新画像を取得し表示させることができます。

以下HTMLソースのサンプルを参照にし、自動更新で画像を表示するホームページを作ります。

(1)

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>CS-MVTX01F Networkcamera</TITLE>
<script Language="JavaScript">
<!-- Hide me from other browsers
var timerID = null;

var timerRunning = false;
var image_object;
function stopclock (){
        if(timerRunning)
                clearTimeout(timerID);
        timerRunning = false;
}

function startclock () {
        // Make sure the clock is stopped
        stopclock();
        showtime();
}

function showtime () {
        var now = new Date();
```

```
        var hours = now.getHours();
        var minutes = now.getMinutes();
        var seconds = now.getSeconds();
        var timeValue = "" + ((hours >12) ? hours -12 :hours)
        timeValue += ((minutes < 10) ? ":0" : ":") + minutes
        timeValue += ((seconds < 10) ? ":0" : ":") + seconds
(1)     timeValue += (hours >= 12) ? " P.M." : " A.M."
        document.webcam.src="http://192.168.1.100/cgi-  (2)
bin/video.jpg?"+timeValue;

        timerID = setTimeout("showtime()",1000);
        timerRunning = true;
}
// Netscapes Clock - Stop  -->
</script>
<base target="_self">

</HEAD>
<BODY bgcolor="#ffffff" text="#000000" link="#0000ff"
alink="#008000" vlink="#800080" onLoad="startclock()">

<div align="center">
  <center>

<table height="399" style="border-collapse: collapse" bor-
dercolor="#111111" cellpadding="0" cellspacing="0"
width="432">
<tr><td height="21" align="center" width="432">
<b><font size="5">My Auto Refresh Page </font></b>
</td></tr>
<tr><td height="349" width="432" align="center">
```

(2)

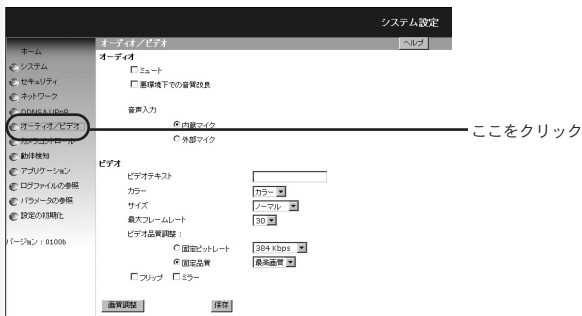
```
<img name="webcam" src="http://192.168.1.100/cgi-
bin/video.jpg" width="320" height="240">
</td></tr>
</table>
<BR><HR><BR>
<FONT SIZE="2">
<A HREF="/album/family.html">マイ アルバム</A>¦
<A HREF="/index.html">トップページ へ</A><BR><BR>
<A HREF="/help/index.html">ヘルプ</A>¦
<A HREF="questions/index.html">お問い合わせはこちら
</FONT></A>
<BR><BR>
  </center>
</div>
</BODY>
</HTML>
```

(1) の部分はJavaScriptの関数の記述した部分です。変更する必要がありません。(2) 部分の中の「http://192.168.1.100/」IPアドレスを使用しているカメラのIPアドレスに書き換えます。カメラのIPアドレスは二個所に記述されており、両方を変更します。
それ以外の部分はご自分のホームページに合わせて、自由に変更することができます。

カメラを使いこなそう

1.最適なパフォーマンスを得るための設定

最適なパフォーマンスとは、可能な限り最小限のネットワーク帯域幅を使ってできる限り速い画像のリフレッシュ(更新)レートおよび、可能な限り高い動画品質を得ることです。パフォーマンスの設定は「ビデオ/オーディオ」設定ページでおこないます。

左側のメニューから「オーディオ/ビデオ」をクリックします。次の設定画面が表示されます。

リアルタイム映像を最優先にしたい

リアルタイム効果を得るためには、最低でも秒毎20画像を送信できるネットワーク帯域幅が必要となります。
1Mbps以上のブロードバンドネットワークをご使用の場合はビットレートを1000Kbps または 1200Kbpsにして、固定品質を「最良」にしてください。

●*注意*

最大フレームレートは50Hzシステムでは25、また60Hzシステムでは30となります。

ネットワーク帯域幅が384Kbps以上である場合は、帯域幅に合わせてビットレートを固定し、最大フレームレート(25または30)を固定してください。

ご使用環境において画質が極端に劣化する場合は、最大フレームレートを20に下げて送信データ量を減らすと画質が上がります(肉眼では、20フレーム/秒と25/30フレーム/秒の違いはほとんどありません)。

ネットワーク帯域幅が384 Kbps以下の場合は、帯域幅に合わせてビットレートを固定した上で、最適なパフォーマンスが得られるまで最大フレームレートを調整してください。
低速ネットワーク環境では、フレームレートが大きくなればなるほど画像はぼやけて表示されます。画像のサイズを「ハーフ」とすると画像品質を向上させることができ、「ハーフ x 2」で拡大表示することも可能です。

●*注意*

各パラメータを最適状態に調整しても、複数のユーザが同時に閲覧する場合、パフォーマンスはユーザごとに異なる可能性があります。各ユーザで環境が異なるため、迅速なネットワークではパフォーマンスも低下します。

画像の鮮明表示を最優先にしたい

最高の動画品質を得るためには、「ビデオ品質調整」で「固定品質」を「詳細」、または「最良」とした上で、最大フレームレートをご使用ネットワークの帯域幅に合うように設定します。低速なネットワーク環境において画像が乱れる場合は、「クライアント設定」→「接続タイプ」でTCPプロトコルを選択してください。これで、より鮮明な画像が得られますが、ある程度遅れが生じます。なお、低速な接続環境で複数ユーザから閲覧した場合、パフォーマンスは劣化してしまいますのでご注意ください。

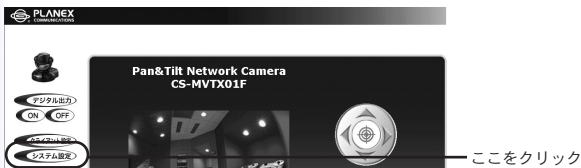
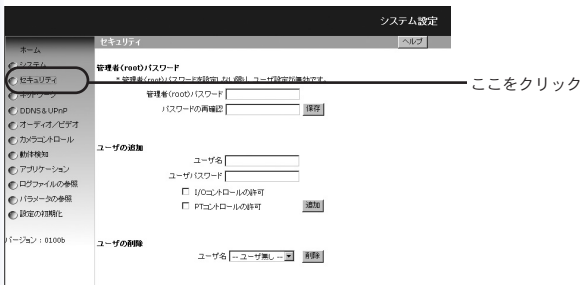
リアルタイム映像←→鮮明表示の間で妥協したパフォーマンスが得たい

ブロードバンドネットワークを使用の場合は、帯域幅を固定せずに、「固定品質」を「標準」以上に設定します。 もしくは、ネットワークの実際の速度に合わせて帯域幅を固定し、フレームレートを30に設定してください。画質がよくない場合はフレームレートを15以上30以下の範囲で選択し、もし改善されなければ、より低い帯域幅を設定してください。

2 ユーザアカウントの設定

■ セキュリティは第一

本製品はデフォルトでパスワードが設定されていません。IPアドレスさえ分かれば、だれでもカメラにアクセスでき、システム設定も変更できてしまうということになります。外部ユーザがカメラにアクセスするようになっている時は、まず管理者(root)のパスワードを設定してください。

トップページで「システム設定」をクリックします。

左側のメニューから「セキュリティ」をクリックします。次の設定画面が表示されます。

管理者(root)のパスワード」と「パスワードの確認」フィールドに新しいパスワードを入力し、[保存] をクリックします。

次にユーザアカウントを設定します。最大20人分のユーザアカウントが登録可能です。

ユーザアカウント用の「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。

「I/Oコントロールの許可」ユーザにカメラの外部端子コントロールの権利をあたえることができます。

「PTコントロールの許可」ユーザにカメラのパン/チルト コントロール権利をあたえることができます。

●*注意*

パン/チルト コントロールおよび、外部端子コントロールの権利は、ユーザごとに有効/無効にすることができます。

ユーザアカウントを削除したいときは、「ユーザ削除」→「ユーザ名」の一覧からユーザ名を選択して「削除」をクリックします。

ユーザの削除

ユーザ名 -- ユーザ無し -- 削除

■「デモ」アカウントを作りたい

「デモ用のアカウントを許可する」オプションをオンすると、カメラへのアクセスの際にユーザ名として「demo」を入力すれば、パスワード無しで映像を「デモ版」として閲覧できます。また管理者は、制限数を超えて閲覧者が動画を見られるよう設定することも可能です。ただし、制限数を超えたユーザには動画のかわりに静止画像(スナップショット)が表示されます。

デモ用のアカウントを有効

他のゲスト用のスナップショットホームページを有効

スナップショットインターバル: 10 秒 保存

■ マルチメディア対応の人気サイトを作りましょう

・友人に自慢したい！ 小・中規模アクセスサイト

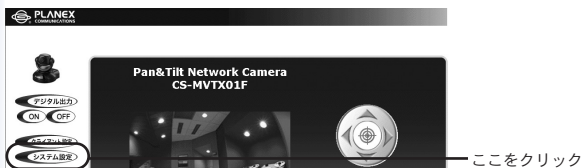
本製品は、閲覧者10人までが同時にアクセスできます。カメラの設定とユーザアカウントの設定後（「付録A 2.ユーザアカウントの設定」（133ページ）参照）、ご友人閲覧用のカメラアドレスを連絡して、映像をご覧いただけます。ユーザはカメラの設定項目にアクセスできませんので、設定が変更されてしまう心配もありません。

●*注意*

> *外部の閲覧者がアクセスできるように設定する場合は、「セキュリティ」設定画面上であらかじめユーザアカウントを登録し、未登録のユーザがアクセスできないようにしてください*

・e-business用としてカメラを使いたい- 大規模アクセスサイト

本製品は、同時に10人までのアクセスが可能です。それ以上閲覧者がアクセスした場合、超過分のユーザにスナップショットのホームページを表示できます。スナップショットモードではJPEG静止映像を表示され、一定間隔で更新されます。

トップページで「システム設定」をクリックします。

左側のメニューから「セキュリティ」をクリックします。

ページ最下部の「他のゲスト用のスナップショットホームページを有効」にチェックを入れます。

「スナップショットインターバル」で、静止画像が更新される時間の間隔を設定します。間隔が長いほど、より多くの閲覧者にスナップショットホームページを提供できます。

デモ用のアカウントを有効
他のゲスト用のスナップショットホームページを有効
スナップショットインターバル：10 秒
保存
ここを設定

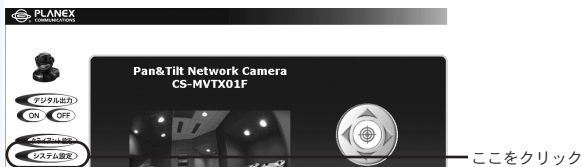
●注意

本機能を使用するためには、ブラウザ側がスクリプト機能に対応している必要があります。

・最大規模アクセスサイトを公開したい

さらに多くの閲覧者を集めたい場合は、大容量ネットワークトラフィックの処理が可能なWebサイトを構築された上で静止画像の更新間隔を短めに設定してください。

● FTPサービスが利用できる場合
本製品をFTPへ画像アップロードするように設定しておきます。その場合は、本製品へのアクセスが閲覧者に依存しないため品質を確保できる利点があります。

トップページで「システム設定」をクリックします。

左側のメニューから「ネットワーク」をクリックします。

システム設定

ネットワーク　ヘルプ

ホーム
システム
セキュリティ
ネットワーク
DDNS＆UPnP
オーディオ／ビデオ
カメラコントロール
動体検知
アプリケーション
ログファイルの参照
パラメータの参照
設定の初期化

バージョン：0100b

☐ 次回起動時にIPアドレスをリセット

基本設定

IPアドレス	192.168.1.237
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
プライマリーDNS	192.168.1.16
セカンダリーDNS	0.0.0.0

SMTP

SMTP メールサーバ 1	
宛先 メールアドレス 1	
SMTP ユーザ名 1	
SMTPパスワード 1	
SMTP メールサーバ 2	
宛先 メールアドレス 2	
SMTP ユーザ名 2	
SMTPパスワード 2	
返信メールアドレス	CS-MVTX01F

ここをクリック

以下のとおりにFTPを設定します。

FTP

FTP サーバのポート番号	21
FTPサーバ 1	
FTP ユーザ名 1	
FTPパスワード 1	
フォルダ名 1	
☐ プライマリーFTPパッシブモード	
FTP サーバ 2	
FTP ユーザ名 2	
FTPパスワード 2	
フォルダ名 2	
☐ セカンダリーFTPパッシブモード	

「FTPサーバのポート番号 」
デフォルトのポートは21で、通常は変更する必要がありません。他の番号にも設定できますが、変更後は外部FTPクライアント側でもサーバポートの設定を同様に変更する必要があります。

「FTPサーバ1」
外部FTPサーバのドメイン名、またはIPアドレスです。

「FTPユーザ名1」
外部FTPサーバにログインする時に使われるユーザ名です。

「FTPパスワード1」
外部FTPサーバにログインする時に使われるパスワードです。

「フォルダ名1」
外部FTPサーバ上の既存のフォルダ名です。JPEG画像が指定したフォルダにアップロードされます。

「プライマリーFTPパッシブモード」
パッシブモードFTPを利用する場合はチェックを入れます。不明な場合場ネットワーク管理者にお問い合わせください。

以降のFTPサーバ2に関する項目は、バックアップFTPサーバの情報です。バックアップFTPサーバ設定しない場合はスキップしてください。

画面の下部にある「保存」をクリックし、システムが再起動するまでお待ちください。

左側の「アプリケーション」をクリックします。

以下のとおりに「曜日スケジュール」を設定します。

曜日スケジュール

☐日曜日 ☐月曜日 ☐火曜日 ☐水曜日 ☐木曜日 ☐金曜日 ☐土曜日

スナップショット開始時間 00:00:00 [hh:mm:ss]

スナップショット終了時間 00:00:00 [hh:mm:ss]

☐ **上記以外の時間**

「日曜日 」
カメラのスナップショットをいつ撮り始め、終わらせるかを選択してください。

「スナップショット開始時間 」
スナップショット撮影の開始時間を設定します。例:「09:30:00」

「スナップショット終了時間 」
スナップショット撮影の終了時間を設定します。例:「18:45:00」

「上記以外の時間 」
上記に設定された時刻以外は常にスナップショットを撮るように設定します。

画面の下部で「シーケンシャル オペレーション」にチェックを入れて「 (...) 秒ごとにスナップショット」で更新間隔を設定します。※ 更新間隔を短めに設定してください。

「スナップショットをFTPで送信」を選択し「FTPスナップショットは、日付け／時刻を付加」チェックをはずします。「保存」をクリックします。

□シーケンシャル オペレーション

0 秒ごとにスナップショット

○スナップショットをメールで送信

◉スナップショットをFTPで送信

□FTPスナップショットは、日付/時刻を付加

保存

画像が指定したフォルダに正しくアップロードされていることを確認します。画像は「video.jpg」の名前でアップロードされます。あらかじめ、今回FTP経由でアップロードした画像を表示するホームページをご用意ください。

● FTPサービスが利用できない場合

自動更新を行うホームページを使用することで本製品から定期的に最新画像を取得し表示させることが可能です。

自動更新ホームページをご用意ください。画像のアドレス（URL）はhttp://(本製品のIPアドレス)/cgi-bin/video.jpgとなります。次に、ご使用ネットワークの帯域幅で最適な映像が表示されるよう、更新間隔を設定してください。閲覧者が非常に多い状態で頻繁に更新を行うと、本製品への負荷が増大し映像表示のレスポンスが悪化する恐れがあります。

3 セキュリティアプリケーションの設定

「アプリケーション」設定ページ上のオプションを組み合わせることで多数の便利なアプリケーションを実行することができます。トリガーソースとしては、接続した外部機器からの検出、および「動体検知」があります。さらにイベントに応答するアクションとして、インターネット経由でスナップショットのアップロードと、アラームのトリガーを選択できます。スナップショットのアップロードは、ニーズに合わせてメールまたはFTPにての送信を選べられます。どちらの方法も、「ネットワーク」設定ページから設定をおこないます。

A.スケジュールの設定
第一のステップとしては、セキュリティアプリケーションのスケジュールを設定します。

1. トップページで「システム設定」をクリックします。

2. 左側のメニューから「アプリケーション」をクリックします。

3.「曜日スケジュール」で曜日を選択し「スナップショット開始時間」および「スナップショット終了時間」指定します。

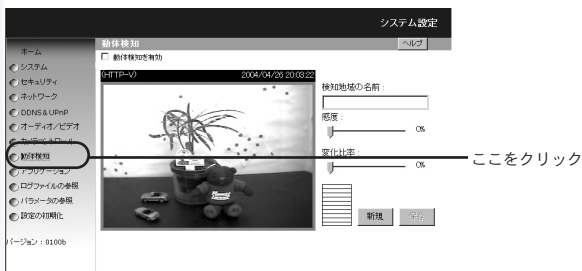
4.「イベント動作」にチェックを入れます。

5.「イベントが発生してから「…」秒遅れて再検知」で遅延時間をします。これで、最初のイベント発生後に誤報アラームが止まらなくなる現象を回避することができます。

6.「イベント後「…」秒でスナップショットを取る」で遅延時間をします。これで、移動する物体の方向をキャプチャすることだできます。

B. 動体検知したらスナップショットを送信する

外部センサーを使用しない場合は、本製品の動体検知機能を使って被写体の動きをモニターできます。セキュリティチェック用にスナップショットをメールに添付して送信することが可能です。

1. 左側のメニューから「動体検知」をクリックします。

2.「動体検知を有効」にチェックを入れます。

3.「新規」をクリックし、動体検知用のウィンドウを表示します。

4.「地域の名前」にウィンドウの名前を入力します。

5.検知地域ウィンドウのタイトルバーをドラッグしてウィンドウを移動したり、ウィンドウの端をドラッグしてリサイズしたりすることができます。
※検知ウィンドウを3つまで追加できます。

6.「感度」で動体検出の感度を設定します。感度が高いほど動きが検出しやすくなります。

7.「変化比率」を設定します。変化比率が高くなるほど，移動する小さな物体が検出しづらくなります。

8. 「保存」をクリックします。

左下に動体検知の状態を表すバーが表示されます。 緑表示は、ウィンドウ内の動作が設定されているレベル以下であることを示し、赤表示はレベル以上であることを意味します。

●*注意*

変化比率は、低めの設定を推奨します。高感度と低変化比率の設定で、動体検出はより簡単におこなわれます。低変化比率では、選択された検出ウィンドウの全体をカバーする必要がなく、ウィンドウ内の小さな動きでも検出機能を動作させます。

9.左側のメニューから「アプリケーション」をクリックし、アプリケーション設定画面に戻ります。

10.「トリガー条件」では、ステップ4で設定した検知ウィンドウ名にチェックを入れます。

11.「トリガーアクション」では、「動体検知されたら、スナップショットを送信する」にチェックを入れます。

12.ニーズに合わせて「スナップショットをメールで送信」、あるいは「スナップショットをFTPで送信」を選択します。

13. [保存] をクリックして設定を保存します。

付録B

トラブルシューティング

カメラの設定について

Q.「ホーム」を選択したのにカメラの向きが少しずれてしまう
A.手でカメラの向きを変えてしまうと軸がずれてしまい、「ホーム」を選択しても中央に戻らなくなります。その場合は設定画面の「設定の初期化」から「キャリブレート」をクリックするか、一度電源を入れ直すと元に戻すことができます。

Q.タイムスタンプ上の時刻がコンピュータ上の時刻表示と違っている
A.タイムスタンプ上の時刻は本製品のシステム時間を元に表示されます。コンピュータと同期させることや、ネットワーク上のNTPサーバに接続して同期させることもできますので、「システム設定」の「システム」の中で最適な更新方法を選択してください。

Q.パスワードを忘れてしまったらどうしたらよいでしょうか?
A.カメラにアクセスするユーザの方は、カメラの管理者にパスワードを問い合わせてください。

管理者権限(root)のパスワードを忘れた場合は、設定を初期化するしかありませんので、「第2章 3.本体側面」(18ページ)を参照し、設定の初期化を行ってください。

Q.動体検出ウィンドウを開いているのですがうまく動作しません。
A.動体検出ウィンドウが設定され名前も与えられている場合は、「動体検知を有効」オプションがチェックされていることをご確認ください。同機能が有効となっている状態で「感度」および「変化比率」の調整を行ってください。

カメラ画像の閲覧について

Q.アクセスすると警告が表示されてカメラの映像が表示されない
A.ブラウザのセキュリティ設定で「未署名のActiveXコントロールのダウンロード」を有効にしてください。

Q.再生画像が遅くコマ送りのようになってしまう。
A.大勢のユーザがアクセスする場合や、回線の帯域幅が狭い(速度が遅い)場合は、連続したデータをスムーズに送信することができなくなります。その場合は「オーディオ/ビデオ」の設定で「フレームレート」を下げるか、「ビデオ品質調整」で「固定品質」を「標準」等に設定してください。

Q.画像が鮮明に映りません。
A.本製品を適切な位置に設置した後、レンズを回して焦点を調整してください。また、「オーディオ/ビデオ」の「イメージ設定」画面に、画像設定およびホワイトバランスを微調整することで最適な画質にすることもできます。

Q.画像が定期的に更新されないのですが?

A.ウイルス対策ソフトやインターネットセキュリティソフトによっては、WEB経由で受信した内容をフィルタする機能を持つものがあります。同機能実行中はデータの検査に時間がかかるため、本製品のようなストリーミングアプリケーションに影響を及ぼす場合があります。ただし、同現象に影響されるのは本製品のHTTPモードのみとなります。ご使用ネットワーク上でHTTPモードのみ許可されている場合は、ご使用ウイルス対策ソフトのWEBフィルタリング機能を一時的に無効にしてください。ただし同機能が無効となっている間は悪意のあるネットワーク上の活動の影響を受ける危険があります。

Q.映像は表示されるのですが音が何も聞こえてきません。

A.画像の上に"V_ONLY"と表示される場合は、「クライアント設定」ページで「音声を使用しない」のチェックを外してください。"AV"のかわりに"V"と表示されている場合は、ご利用のコンピュータのサウンドカードが正しくインストールされていない可能性が考えられます。"AV"と表示されている場合は、本製品の音源(内部・外部マイク)をご確認ください。

Q.認証を受けたあともネットワークカメラからの動画映像が見られません

A.当現象にはいくつかの原因が考えられます。

1. 本製品のインストールが済んだばかりの状態で動画が確認できない場合は、Act/Link LEDが点滅しているか、またレンズキャップが外されているかどうかご確認ください。

2. 本製品が正常にインストールされており、Internet Explorerで本製品に対し初めてアクセスしている場合は、Internet Explorerのセキュリティレベルを調整してプラグインのインストールが行えるようにしてください。

3. 上記調整を行っても状況が改善せず、かつ画像ウィンドウの上に"connecting"メッセージが表示される場合は、ネットワーク上のトラフィックが混雑していることが考えられます。

カメラ画像の公開について

Q.ブロードバンドルータ環境で利用しているが、LAN上のコンピュータからはアクセスできるがインターネットからカメラにアクセスできない。

A.「ネットワーク」画面のIPアドレスの設定でデフォルトゲートウエイにブロードバンドルータのLAN側IPアドレスが設定されているか確認してください。さらに、ブロードバンドルータのポート転送(ローカルサーバ設定、静的マスカレード設定)の設定が行われているか確認してください。マニュアル「第11章2.ルータを介してインターネット上に公開したいとき」も参考にしてください。

Q.ネットワークカメラを極力、非公開なかたちで使用することは可能でしょうか?
A.ユーザ認証は、本製品を不正アクセスから守ります。またHTTPポートを非公開の暗号に変更することも可能です。「デモ用のアカウント」を設定することによりゲストユーザと正規ユーザの区別が容易になり、ゲストユーザからのアクセスはいつでも禁止することが可能です。またシステムログが確認できますので、異常な動作があった場合はその発信源を追跡することも可能です。ブロードバンドルータ環境の場合は、ルータ側でポート転送の設定を行わなければ、インターネットから閲覧されることはありません。

その他

Q.天井に設置することは可能でしょうか?
A.可能です。「オーディオ/ビデオ」設定ページにフリップおよびミラーのオプションがありますので、上下逆さまの状態で設置される場合も映像を補正することができます。

Q.カメラから動画データ以外のパケットが送信される。
A.「UPnP」機能が有効になっているとUPnPを利用するためのパケットがカメラから送信されます。UPnP機能を使わない場合は「システム設定」の「DDNS & UPnP」画面で「Universal PnP」のチェックを外してください。

Q.プラグインは何のために使用するのですか?
A.本製品の提供するプラグインは、Internet Explorer上で動画および音声を利用するために使用します。ご利用のシステム上でプラグインのインストールが禁止されている場合は、ご使用WEBブラウザのセキュリティレベルを下げる必要があります。

Q.ネットワークカメラの動画速度はどのくらいでしょうか?
A.MPEG4コーデックエンジンは本製品内部で30フレーム/秒の処理が実行可能です。ネットワークに接続して使用するときは、以下の要因などで10〜20フレームになります。

・ ネットワークスループット
・ 本製品上で使用可能な帯域幅
・ ユーザ数
・ ビュー内で複雑な物体または動きがある場合
・ ご使用コンピュータの処理能力

Q.ネットワークカメラの映像を同時に閲覧できるユーザの最大数は何人でしょう?
A.あまりにも多くのユーザがアクセスを行うと、ネットワークに多大な負荷がかかります。そのため、本製品は最大10名までのユーザが同時に接続し本製品上の映像をおよび音声を鑑賞できるよう設計されています。より多数のユーザに対しアクセスを許可するときは、別途WEBサーバを構築された上で、本製品上の情報を定期的に取り込むことをおすすめします。

仕様

カメラ部	解像度	352×240、176×120ピクセル
	画素数	27万画素
	画像圧縮方式	MPEG4
	パン(左右)	角度270°(±135°)回転速度10°〜50°/秒
	チルト(上下)	角度135°(+90°〜-45°)回転速度7°〜25°/秒
	セキュリティ	ユーザー名、パスワード
	対応プロトコル	UPnP、TCP/IP、HTTP、SMTP、FTP、NTP、DNS、DHCP、DDNS
	最大ユーザー数	10 ユーザー
	映像素子	1/4カラーCCD
	ホワイトバランス	自動
	最低焦点	1 Lux/F2.0
	焦点距離	4.3mm
	撮影距離	40cm 〜 ∞
	レンズの明るさ	F2.0
マイク部	サンプリングレート	24Kbps、8KHz
	音声入力	無指向性マイク内蔵
	周波数帯域	50〜16,000Hz
	S/N比	58dB以上
インタフェース	規格	IEEE802.3/IEEE802.3u準拠(10BASE-T/100BASE-TX)
	ポート数	RJ-45×1ポート、10BASE-T/100BASE-TX自動認識
	通信速度	10Mbps/100Mbps
	外付けMIC入力コネクタ	モノラルミニジャック(Φ3.5mm)、2V(RMS)
	A/V出力コネクタ	オーディオ出力　900mv(RMS) ビデオ出力　75Ω/Vp-p
画像表示 / 設定環境	対応OS	Windows XP/2000/Me/98SE
	WEBブラウザ	Internet Explorer 5.5 以上
専用ユーティリティ動作環境	対応OS	Windows XP/2000/Me/98SE(Windows XP/2000 推奨)
	CPU	Pentium II 350MHz 以上(Pentium III 1GHz 以上推奨)
	メモリ	128 MB (256 MB 推奨)
	VGAカード解像度	800×600 以上
外形寸法/重量		105(W)×110(H)×105(D)mm/350g
電源電圧/消費電力		DC12V/最大 8W
EMI		CE、FCC class B、VCCI class B
動作温度		0〜40℃
動作湿度		35〜85%(結露なきこと)

ユーザ登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザ登録をお願いしております。ユーザ登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザサポートをお受けになるにはお客様のユーザ登録が必要となります。ユーザ登録の際は、ホームページ掲載の「個人情報保護方針について」をご確認後、ユーザ登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザ登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。

http://www.planex.co.jp/user/

弊社へのお問い合わせ

■弊社製品の追加購入
弊社製品のご購入は、販売店様またはPLANEX DIRECTまで。
ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。
〈PLANEX DIRECT〉
http://direct.planex.co.jp/

■製品に関するお問い合わせ
製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。
ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。
〈ご質問/お見積もりフォーム〉
http://www.planex.co.jp/lan.shtml

■技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ
製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。
〈お問い合わせフォーム〉
http://www.planex.co.jp/support/techform/
受付：24時間
〈電話〉
フリーダイヤル：0120-415977
受付：月～金曜日、10～12時、13～17時
＊祝祭日および弊社指定の休業日を除く
〈FAX〉
ファクス番号：03-5766-1615
受付：24時間

◇お問い合わせ前のお願い
サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。
お客様のご協力お願いいたします。
・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名（Windows XP/Meなど）
・ご利用のネットワークの環境（回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など）
・ご質問内容（現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されているときはその詳細を書きとめてください）

■その他
その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。
プラネックスコミュニケーションズ
http://www.planex.co.jp/

質問表

技術的なご質問は、この2ページをプリントアウトして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

プラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行
FAX：03-5766-1615

送信日：　　　　年　　　月　　　日

会社名		部署名	
名前			
電　話		FAX	
E-MAIL			

製品名	有線LAN対応ネットワークカメラ
型番 Product	**CS-MVTX01F**
製造番号 Serial No.	

① ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

② OS

OS		バージョン	

③　質問内容

プラネックスコミュニケーションズ株式会社